

特別
73
6798
2



橐囊輻湊下卷

目次

- 一 宜命袋
- 一 燧袋 因有
- 一 屏風袋
- 一 雙調度袋 因有
- 一 麻袋 因有
- 一 鞞袋 因有
- 一 籊袋 因有
- 一 坐袋
- 一 載袋 因有
- 一 昏袋 因有
- 一 臂袋 因有
- 一 針袋
- 一 菟褐袋
- 一 柄立袋
- 一 紗袋
- 一 尺袋 因有
- 一 葦着袋
- 一 母衣袋 因有
- 一 文書袋 文書ト云
- 一 隨身符袋
- 一 宝順袋
- 一 藥袋
- 一 杖袋
- 一 錫袋
- 一 驛鈴袋
- 一 年箱袋
- 一 水袋 因有



- 一 挾囊 因有
- 一 三衣袋
- 一 角袋 因有
- 一 法然上行狀記中繪
- 一 鞞袋
- 一 保呂袋 因有
- 一 尾袋 因有
- 一 漉水袋
- 一 胡錄袋 因有
- 一 臭袋 因有

宣命袋

人車記仁安四正二十六 伊勢公卿勅使
 次勅使泰向八省 宣命於殿上取出生
 絹袋於懷中奉納之如元懸懷中了 袍下下 重上
 山槐記永曆二四二十二同
 勅使退下於弓場殿懸宸筆 宣
 命於頭 生絹袋 兼懸之 表袍下下 重上 着陣坐

昏囊

江次第十九

弓場殿試筆

文人叅入

丸鞆帶名具
昏袋紙筆

好古小録

昏囊

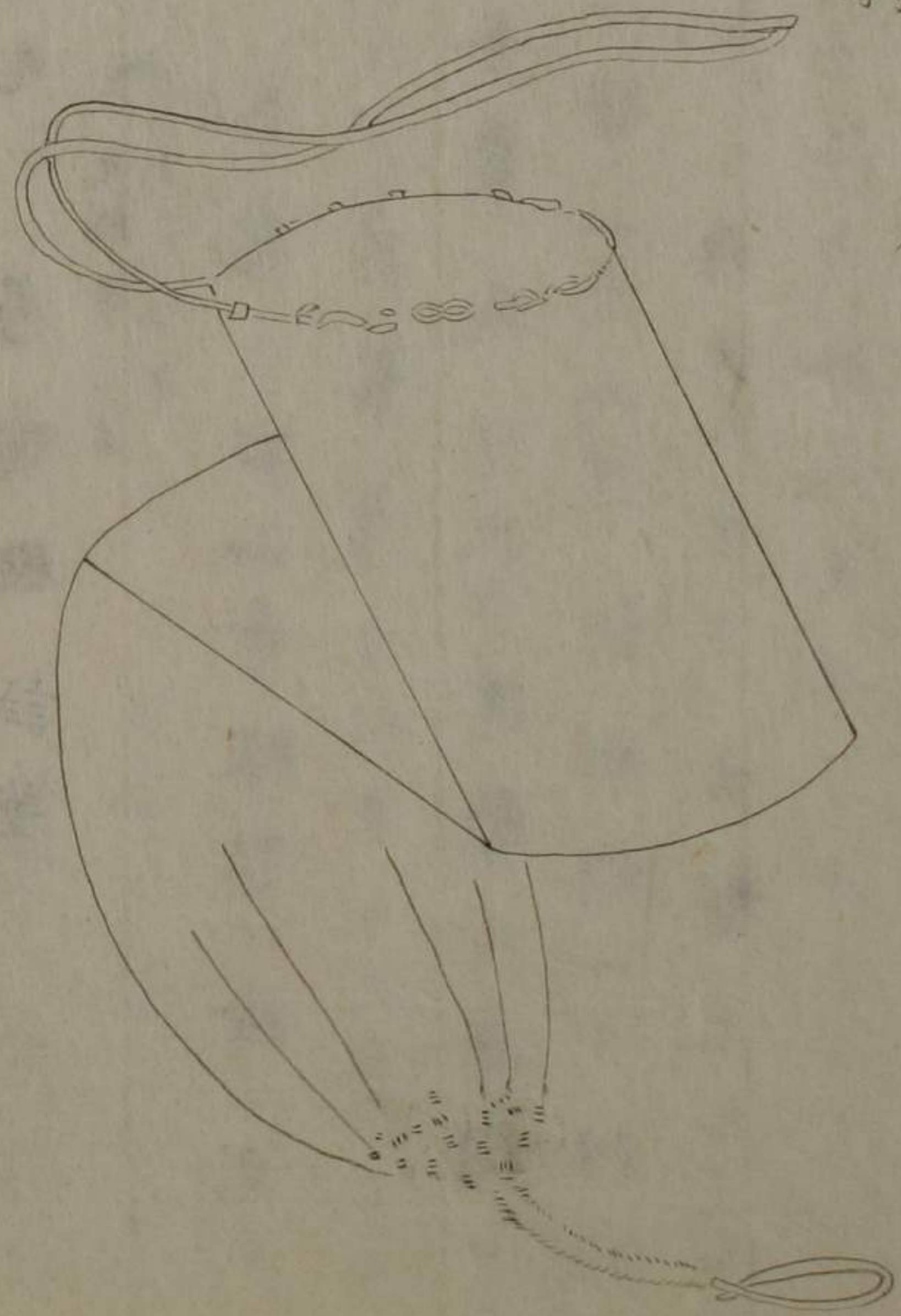
石山寺縁起ノ繪ニ見タ

レ凡圖小ニノ其製考フヘカラス余ニル
所ノ古昏囊 凡テ六ツ其製小異同ア
レ凡長ハ皆一尺二寸計也内一ツ封結
ノ昔ノマニ付タルアリ古製ニルヘシ
封結今ハ名ヲ知人モスクナシ

好古小録

書囊 東寺
傳

長一尺三寸
廣三寸 右囊



文昏袋

文袋

平治物語中

信賴降参之事

并

最後事

爰ニ齡七十計ナル入道ノ柿ノ直垂文昏フ

クロ頭ニ掛タルカ平アシタハキ鹿杖ツキ

盛衰記十九

文覺

入定京上事

サラハ院

宣進ツラントテ懷ヨリ文袋ヲ取出シ中

ナル院宣ヲ進ル佐殿ハ手洗嗽淨衣ニ

紐サシナトシテ是ヲ披見シ給ヒケリ

平家物語

アシスリノ事

サツシキカクヒニカケサセタル布フクロヨリ

入道相國ノユルシ文取出シ奉ル

或秘抄 富士ノ山ノ煙ノ事是ヲ御覽候ト
テ同文袋ヨリ文ヲアマタ取出タリケル民部卿
入道ノ狀也其中ニタテフミヲ假名ニ申サ
セ給一ト表唇シタルヲ取出テ披ミタルニ

燧袋

新千載和歌集

朱雀院御取藤原親盛々から物の使はゆりけり

金の火うちには沈のふらちをまのつとまのけり

入てつりもきとて 流侍々々 權中納言敦忠

うちつきにふいやいつと故々志のぬきしてまのけり

尺素往来

蘇香曰 腦麝曰 麝香丸 阿伽陀藥并 蠟茶等者
当世之人、火燧袋之底面々小藥罍之中 齋持之
以不得貯為耻候

好古小録 燧囊ヲ佩タル圖 古西 見シテ其製

シル一カラス一西卷ニ両面共ニ アルコトヲ知

ル一キ圖アリ依テ試ニ一囊ヲ製ノ博士ノ

訂正ヲ候シ 其後一故家傳ル所ノ古物ヲ得ク

リ余カ取製ト附合ス軍器考ノ圖ニ辻家傳

来ノ古物トテ載タルハ燧囊ニアラス 或云

西ロニノ一ロ燧ヲ納一ロ燈火ヲ納ルト 燧袋

公忠集

以ぢかゝる人乃とせり白き
燧をもちよとの一にて 燧をく火の代とい

後撰集卷第十九

離別歌

みちけくまうまける人よ火のちとほくはく

貫之

於李くはうちてきく火の煙のいんさくまの

後撰集各註云サス日ハ古一カヤ火の千ヲツ

ケタリケリトイヘリ

三光院雜抄 單皮條下云此儀公家中無之物候侍以下

着之候然間此案内之條是非難申候殿中御免

之儀令出来之条有法度物之様々織物 火

打袋亦御免之事上代無其沙汰事候况皮單 平イ

御免之儀不及巨細候歎

蜷川新右衛門親元記寛正六年三月四日花御覽

中畧 御所様上様各御供衆上下卷染也 中畧 常

御直番御太刀御腰物 火打 袋附

兼好家集 淨弁律師 川クラハニカリ侍シニ

らちまてわろのまけごまごまおひとまごまご

日蓮上唇録二十三卷 龍口 難

年来申ツル念仏ヲハ捨候トテ火打袋ヨリ念珠
ヲ取出シテ捨ル者モアリ今ハ念仏ヲ申サント
誓狀ヲ立ル者モアリ

兼宣公記應永三十三三十二朝間暗日出以前出門用板樂

中畧 余着十德 横刀付火打 袋納藥等

同記忘永二十三二十六申初刻計着十德帶刀 火若

燧 袋 并 祇 又 不及 帽子

大平記弟三十三 公家武家榮枯易地之事

五番ノ頭人ハ 中畧 柄鞘皆金ニテ打クニタル刀ニ

虎ノ皮ノ火打袋ヲサケ一様ニ是ヲ引ク

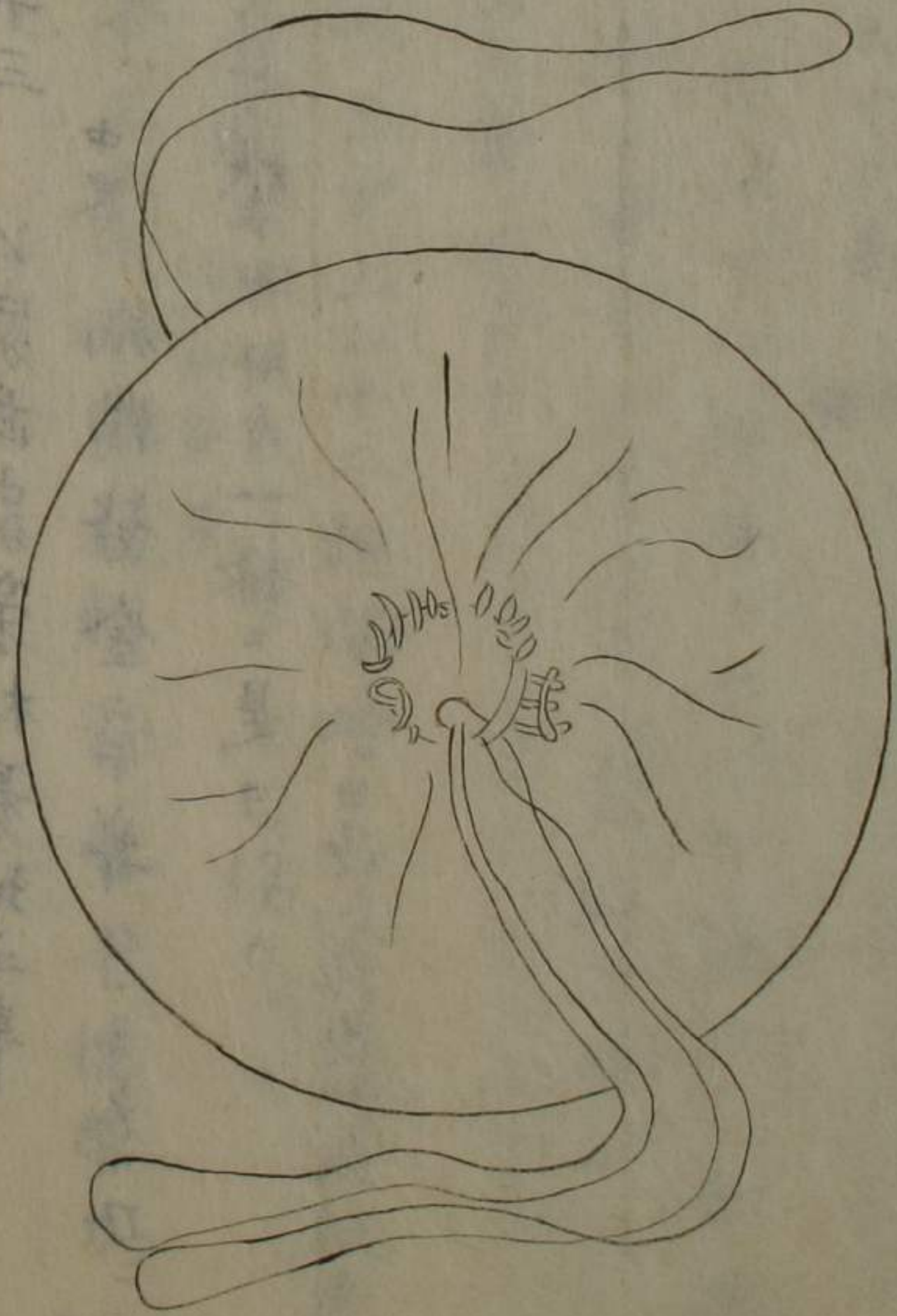


好古小録

燧囊

一故家
取傳

面背
同製



燧袋弦袋

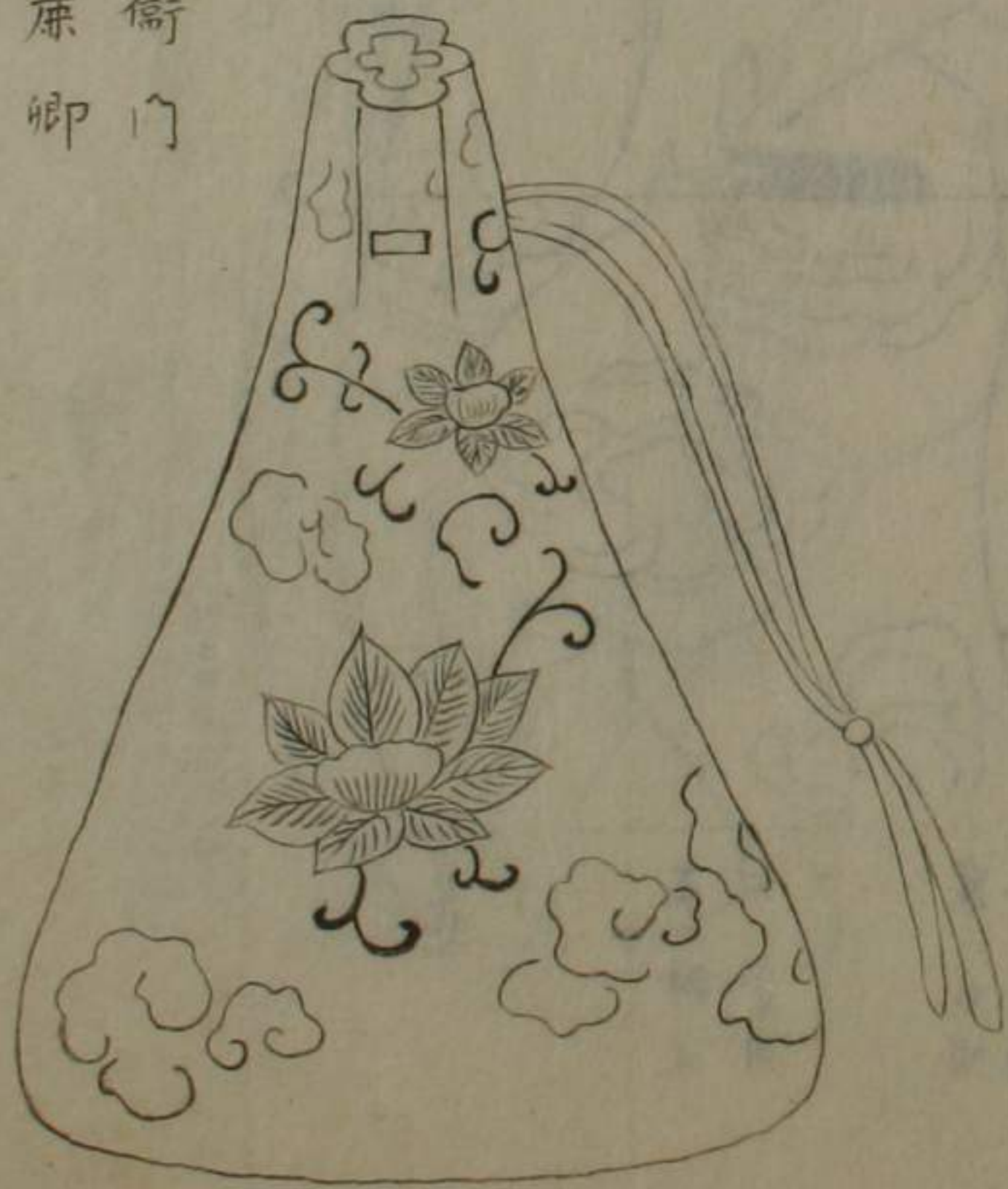
左大臣
高明公
ヨリ

長兵衛尉

長谷部信連傳

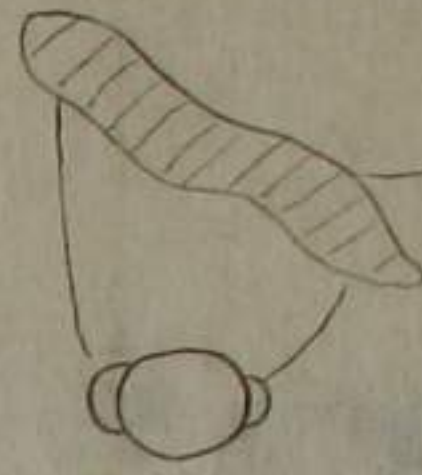
燧袋錦

地赤



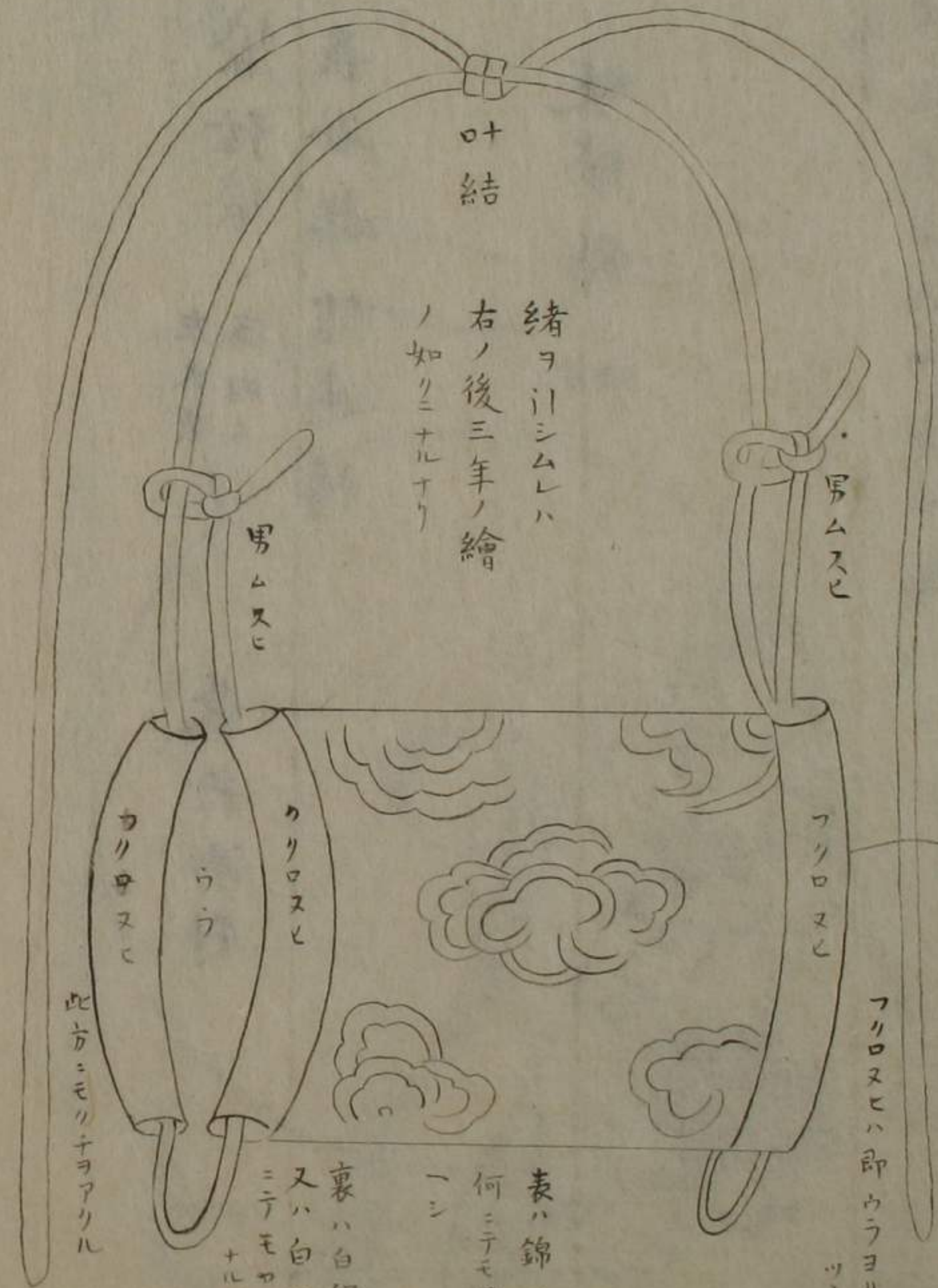
公敬ハ勅云
是四紀州宇治田平左衛門
忠口ヨリ借受祖父公廉卿
令字給因也仍為参考出焉

後三年繪燧袋



大平記北野通夜物語茶ニ
 青磁左工門尉藤綱ハ清川
 ヲ渡ルルテ火并袋ヨリ錢十
 文落シタリシト見エタリ其燧
 袋モコノ因ノ如ク横ッテニコラ
 付タル袋ナル故紐ノシマリユル
 ミテ錢コロヒ出ツルナルミ今世
 上ニアル袋ノ如ク上ニクナノ付
 タルフリロナラハ錢コロヒ出ル
 一ハアルハカラヌ其日餘カ錢ノ
 一ニテ右製ヲ考フヘシ

袋ノ寸法定アルハカラス



叶結

緒ヨリシムレハ
 右ノ後三年ノ繪
 ノ如クニナルナリ

男ムスビ

男ムスビ

此方ニモロヲアケル

フクロヌヒハ即ウラヨリ
 ツマク

表ハ錦又
 何ニテモ用
 一シ

裏ハ白絹
 又ハ白練
 ミテモハワカ
 ナル物ヨシ

此方ニモロクナラケル

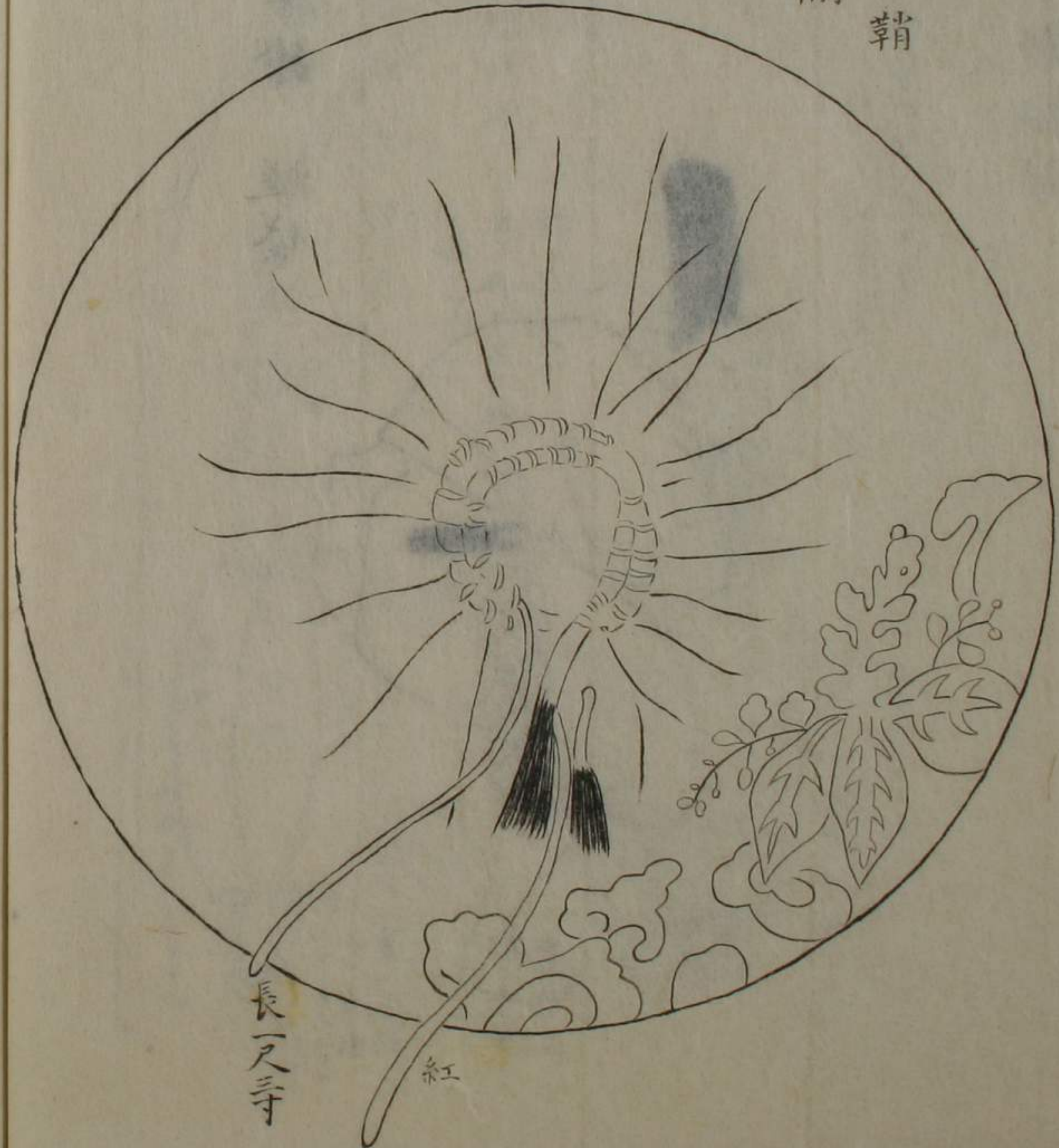
後三年繪 燧袋欵



後三年

正寫

採朶老藥袋下鞘
表白地金襴
裏紫平絹

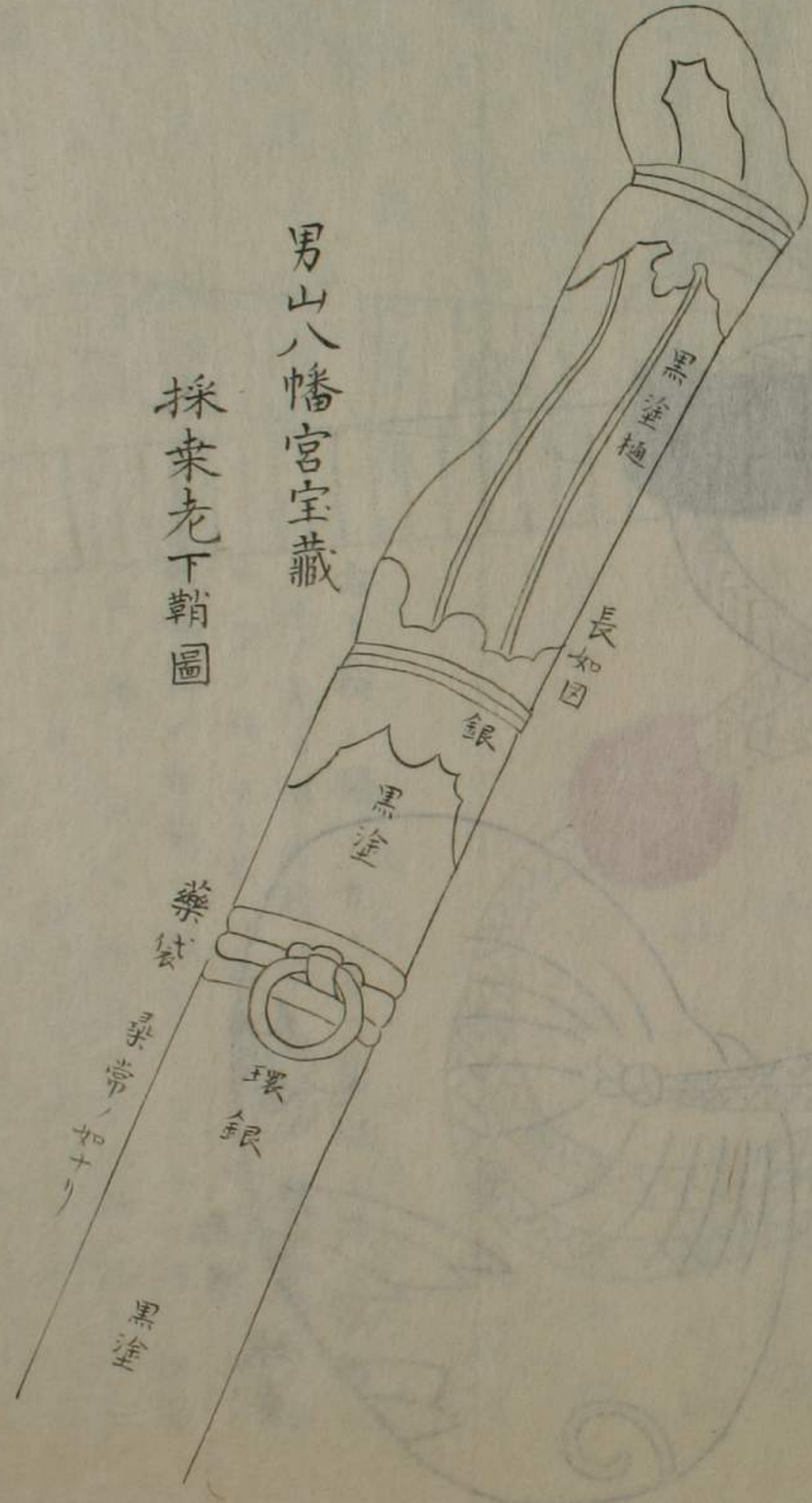


長一尺寸

紅

男山八幡宮宝藏

採朶老下鞘圖



黒塗

長如四

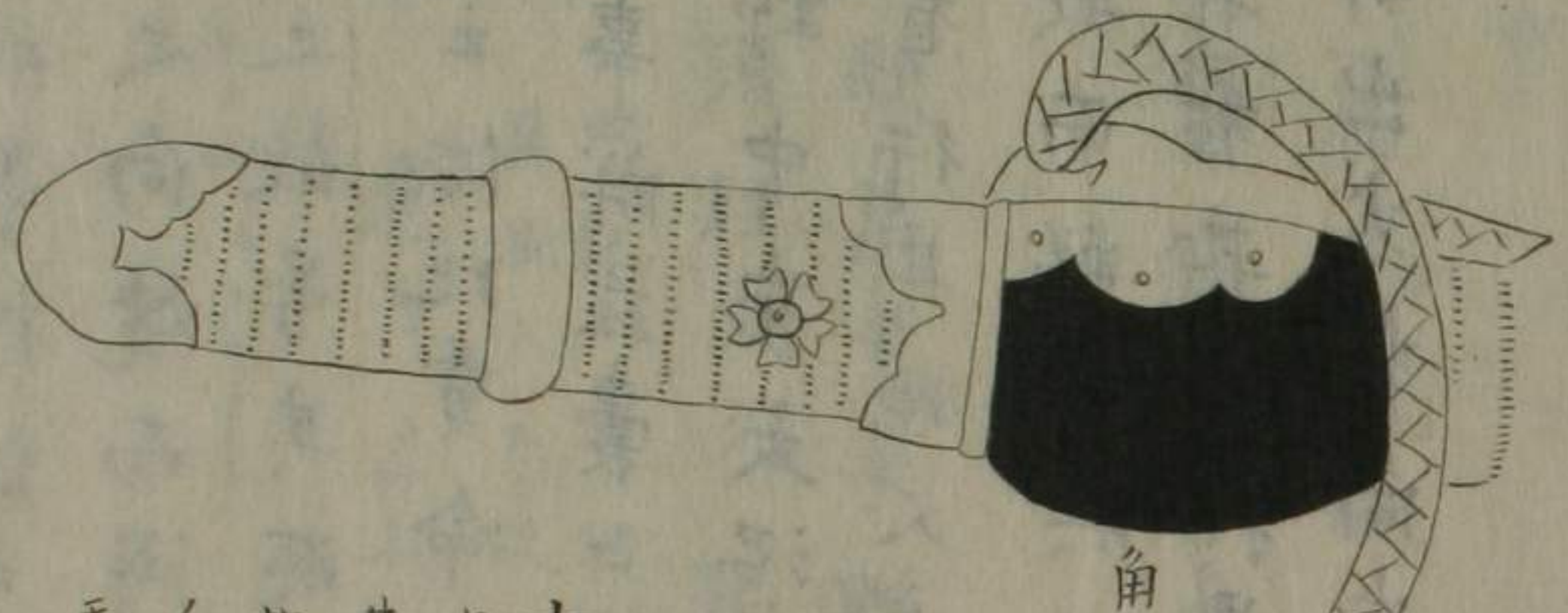
銀

黒塗

薬袋

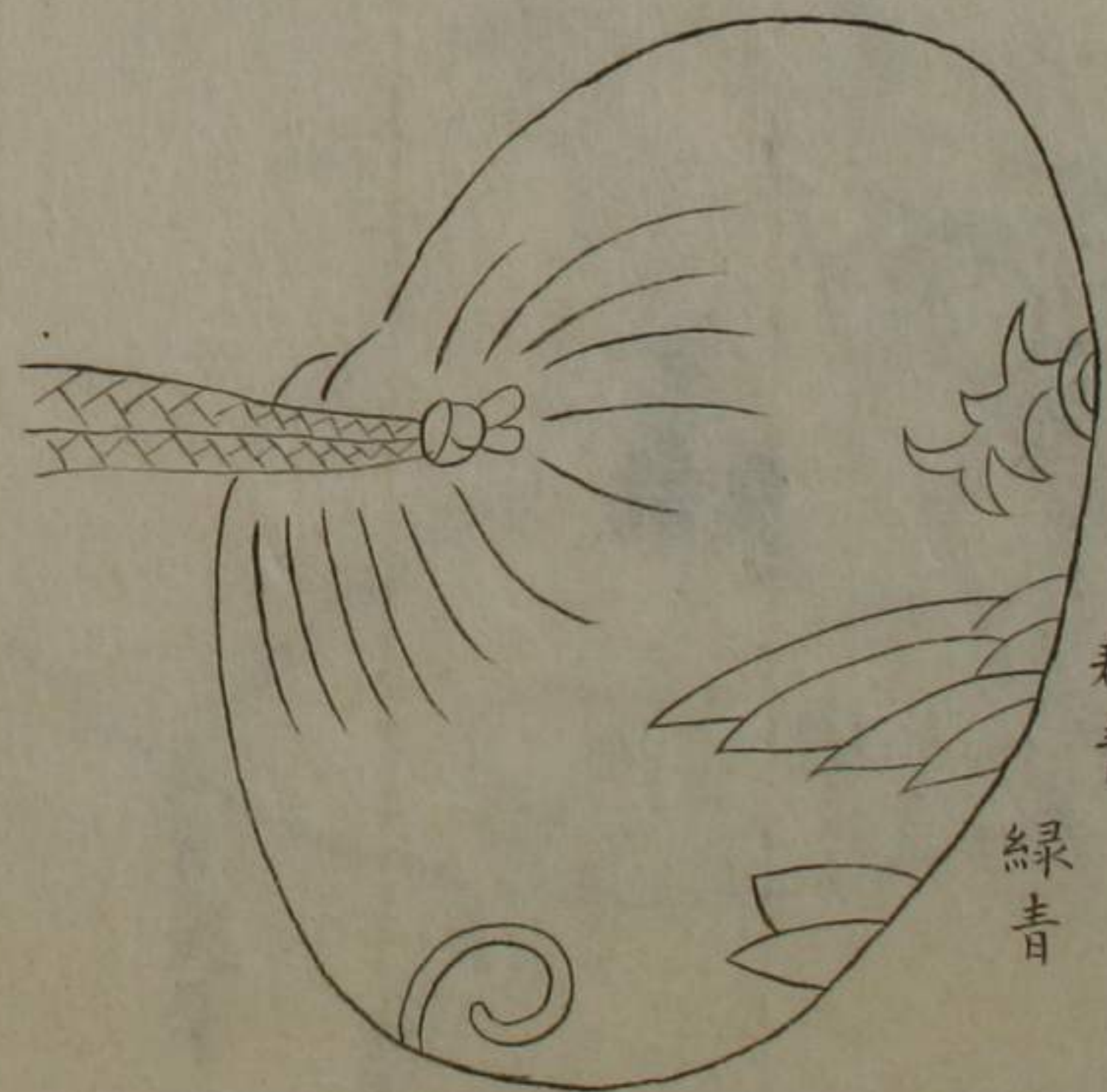
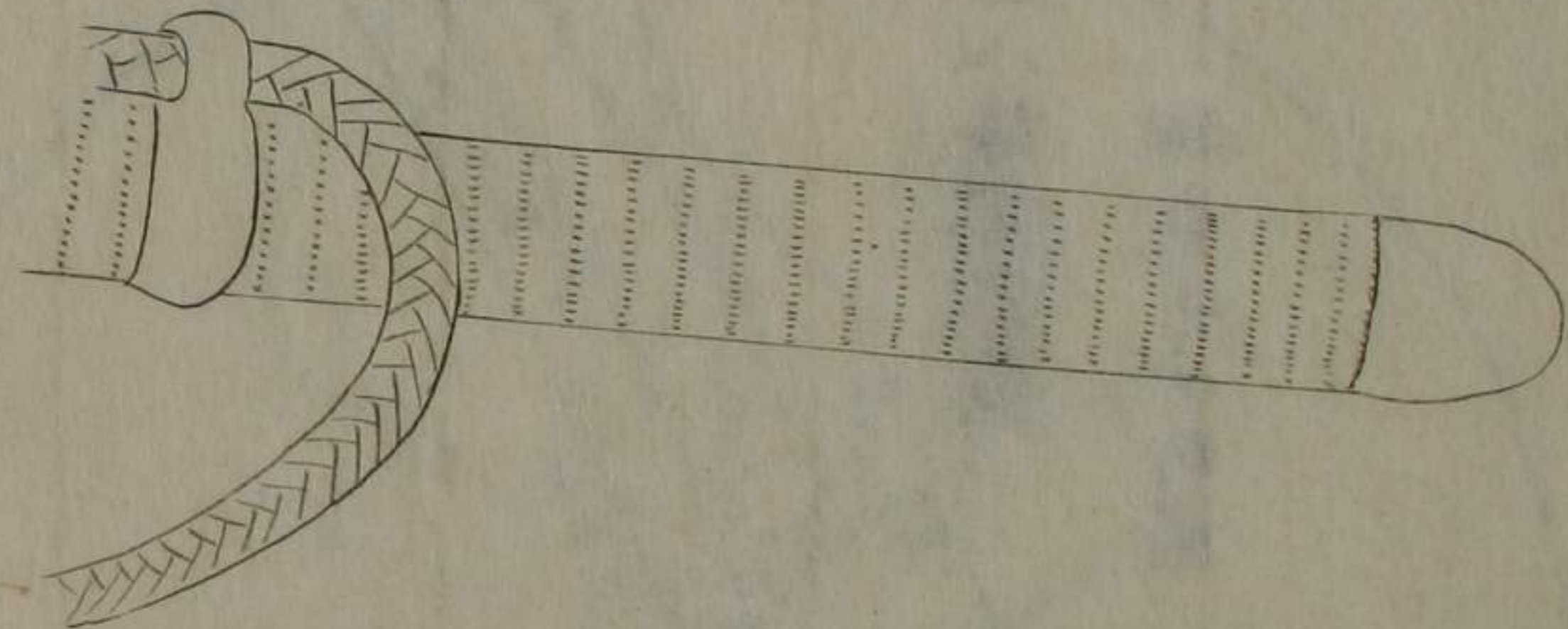
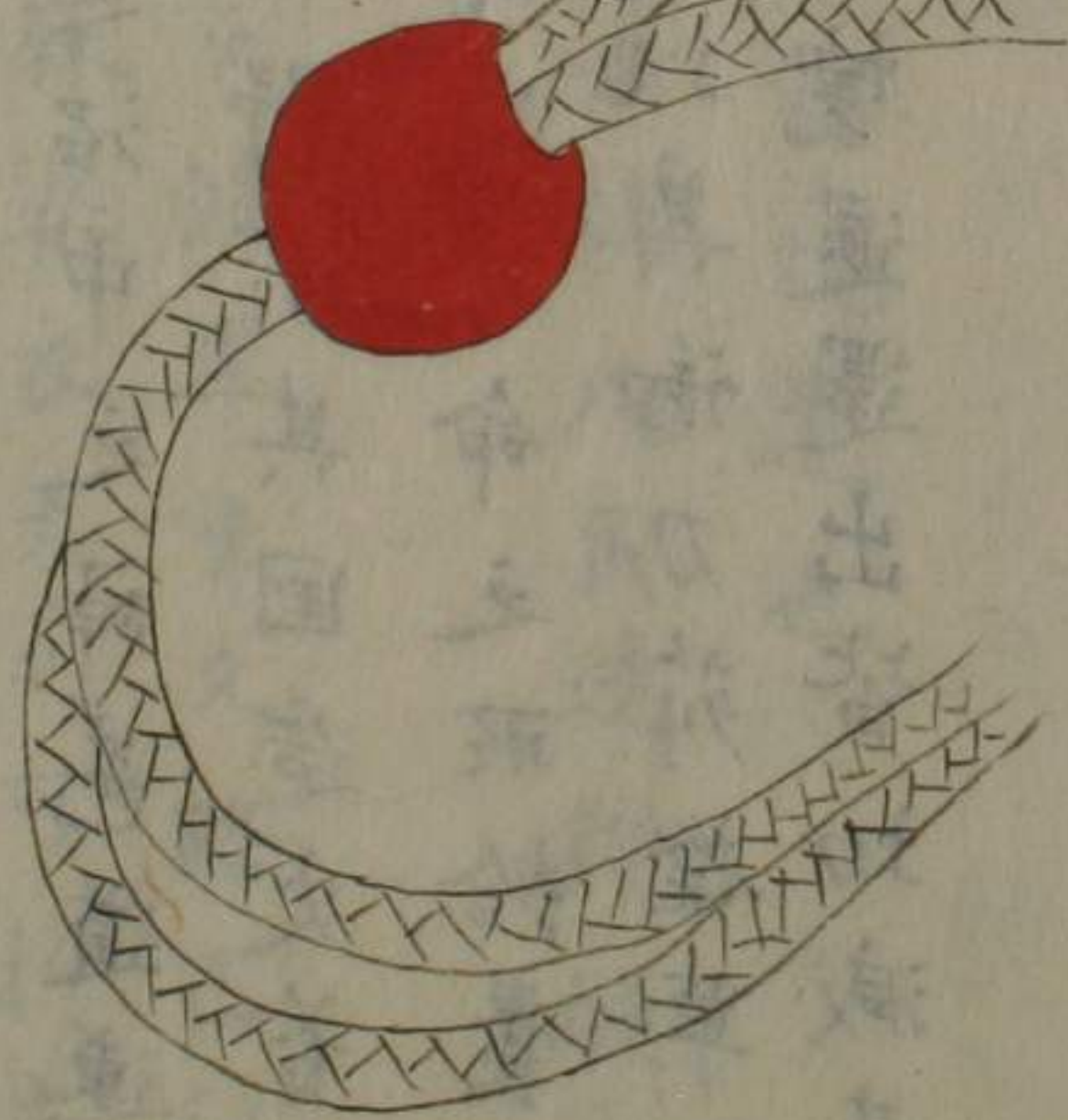
環銀

黒塗



角

右下鞘ノ圖ニカキテノ惣銀ヲ用ユ柄鞘ハ
 口ノキヲ用ユ緒シノ馬込下緒ト囊ヨケリ緒
 共ニ紫ノ緒ヲ用ユ囊ハ朽葉色ノ錦○貞丈按スルニ
 此燧袋ノ形藏人歌合ニノスルモノト同シ雄髪
 ノ者下鞘ヲ佩タリ但後三年合戦ノ因ニミタル
 モハコレト異ナリ 彼ハ上古ノモノナルシ



郡青

緑青

燧囊考

日本各紀景行記云於火燒其野王知被欺則以燧出火之向燒而得免王曰殆被欺則悉焚其賊衆而滅之故号其取曰燒津

古事記云倭比賣命賜草那藝劍亦賜御囊而詔若有急事解茲囊口中畧到相武國之時其國造詐白於北野中有大沼住是沼中之神甚道連振神也於是看行其神入坐其野尔其國造火着其野故知見欺而解開其姨倭比賣命之取給囊口而見者火打有其裏於是先以其御刀刃搯草以其火打而打出火着向火而燒退還出皆切滅其國

造等即着火燒故於今謂燒遺也

倭名類聚鈔云古史考云燧人民造鑽燧音遂和名比字知始出火

万葉和歌集更來贈歌云波里夫久路已利被多

婆利奴須理夫久路伊麻婆衣天之可於吉祭佐

倫勢年世記=須理夫久路ハ火打傳異名ト云故=與=記不後撰集 遠乎くふまのりくもたらふ火うり

此考此も... 燧の事... 燧の事... 燧の事...

夫木抄 六帖題

衣笠右大臣

兼好法師集 淨弁律師榮譽ふまのり

—ふ火打とつ、いほとて

人素往來云当世人火打唄之底面々小藥蓋之
中心存持之以不得貯為耻辱候

御供古實

伊勢貞藤記

云御前十ト又ハ晴ノ水ニ

火打袋廿ヶ候事若キカ夕アルマシ
キ事ニ候四十以後ハ御前一モ廿ヶ申候
但御給ニ候ハ若キ人ニモクルシカラス

親元日記

蛭川親元記

云寛正六年三月四日將軍家花御

覽糸御長持一也常直岳御太刀御腰物火打唄
御鼻紙 御双紙類 御鬘具入物也

武雜記

伊勢貞孝記

御前又晴ノ時火打唄ヲ廿ヶ候事

アルマシク候四十以後ハ不及御案内申上候テ
廿ヶ可申候但病者十トハ藥ヲ入候間若キ
人モ御案内申上候テ廿ヶ申候ハニ歟

伊勢

貞親傳 登常照 愚草 貞隆記 貞助雜記 蛭川道標記 用害記 天和向答 各同夏故畧之

萬 被 昏 条

大館尚氏 記

云火打袋四十以後但大成

不可然 拜領ハ無是非候

正月御事始記

伊勢貞 久記

云刀ヲ人ニ遣候取自然

火打袋ヲサケ申候取ハ取候テ懐中仕候テ
可然候袋トモニ遣事不可有也

隨兵日記 異本云火打袋ハ無用ノ支病者ナリ

ハ可ク用候

私刀記

伊勢貞 收記

云火打袋ノクスリヲ人ノ取望

ノトキハ不及斟酌可有ニテ其取ハ先少
ク夕候テサテ可遣候貝十トニ入タルヲ
其マ、可泰ス候取分テ進之事イカニテ

付ルニ消サルカユニ是ヲ用ヒテ付竹ト
云フトソ

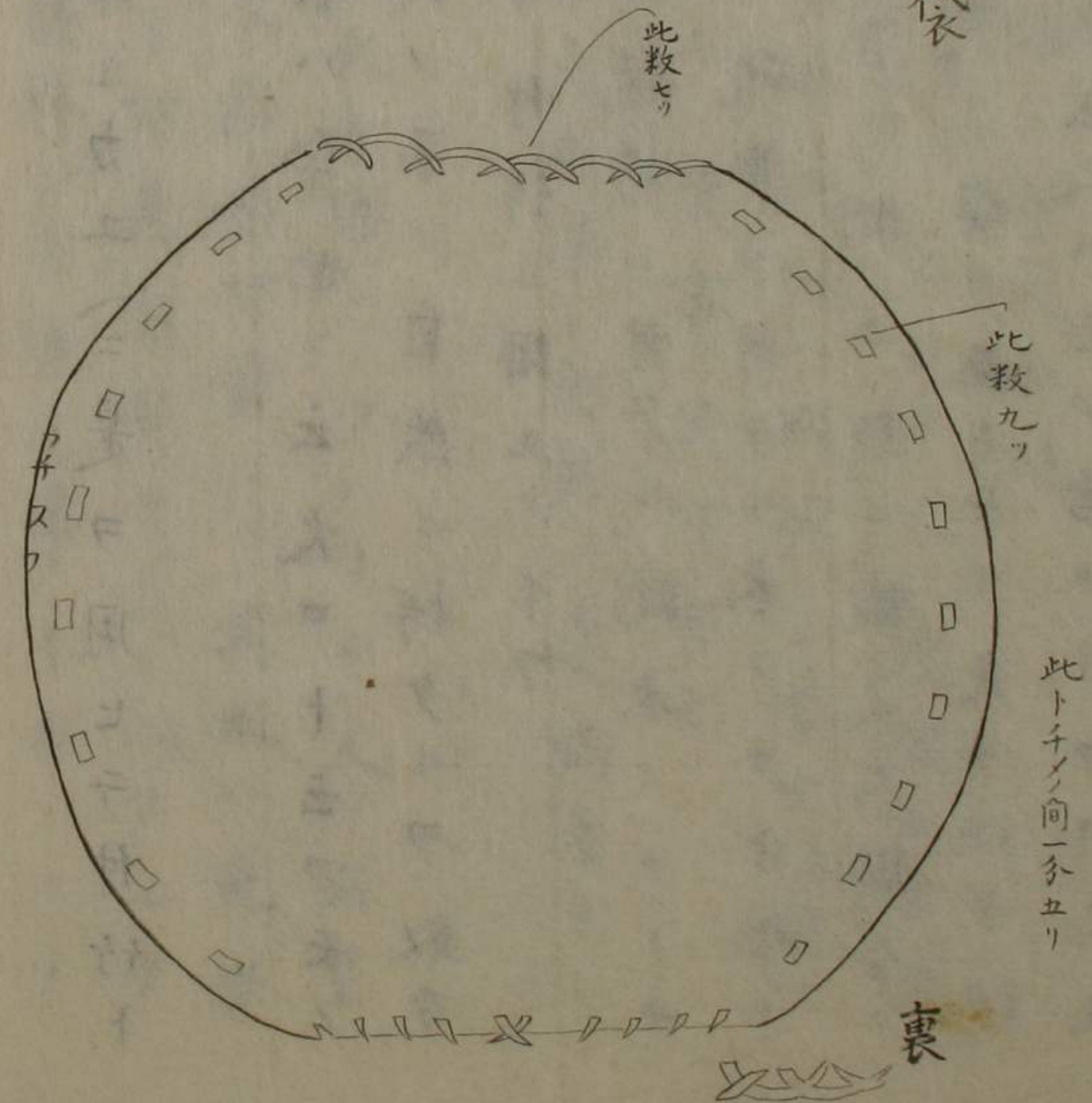
二説ニ付竹ト云ハ今世ニ云火口ト云フモノ
也此制ハ竹ノ子ノ自然ニ朽タルヲ取テ
ヨク接ミテ付竹ニ用ユトイフ

三説云今世ニ云硫黄ヲ付タル就木ノコトナ
ル一シ 按ニ硫黄ヲ付タル木ノコト也ト
云説オタヤカニ聞ユ既ニ職人尽歌合ノ
繪ニ就竹高フ姿ヲ画カケリ夫ヲ以テ視
レハ就竹ト云ヘルモノ古ヨリアリシモ
ノニテ其頃ハ付木トハイハスシテ付竹

トハ号ケタルニヤ

播州須磨寺在

瀬尾太郎火打袋



ソウロフナリ

古實条々

伊勢貞
順記

云ワタマシノ
此火打袋サケ

マシクト又禁勺ヲタシナムヘシ

袋日記

小笠原
持長記

云軍場旅行ニハ必々太刀ニ着

ル也制法一ニニアラス則弦袋ヲ用タルナリ
是ヲ太刀ノアシニク、リ付様秘傳アリ

御成次第古實

伊勢貞
藤記

火打袋サケル夏年

ヨリ候共ハレ十トハ不可然候

松永問答

伊勢貞
孝答

火打袋ハ無用欵之夏

病者ハ
可用候

盞囊抄云ヒウ千ト云字ハ何ノ鑽ノ字ヲモ用工鑽

ヲハ火ヲキルトヨメハ心叶タリ但三宝字

類抄ニハ燧ノ字ヲヒウキトヨメリ云々

故實雜集云万祝言ニ付テ遣候物亦用捨之

口タマシノ祝ニ火性ノ馬火打壼モハタ色

赤キ衣裳下畧

本朝軍器考

軍器考餘篇宇治田忠々記

軍器考補正土肥詮平記

此三条畧之

可見本畧

燧袋花鶯談

秋存采語 千名草 日蓮大傳

本朝武林頁始

可成談 小窗采語 和漢史始

夏山雜談

竹存助語 小窗雜記

右諸畧ニ燧袋ノ説取見アレ氏考徴トナ

ス一キ更多カラスカユニ敢テ是ヲ記サ
ス

火打壼ヲ太刀ニ括ル更ハ御劔ニ御鑰袋

ヲ纏ヒ或ハ弦袋ヲ結ヒ又ハ衛護袋ヲ結

付シ類ノ如ク其袋ノ口ノ紐ヲシメ二筋ノ

結ヲ左右一引合ツテ太刀ノ一ノ足ノ根ニ二

筋ノ緒ニテシメクルコトナルニヤ結ヒ様ニ敢

テ法式ハアル一カラス又腰刀ニ括リ副ユル取

ハ栗形ニ又キ通シテシカト結ヒサケル十

ラニヤ然共今世軍學者流甲冑或太

刀腰刀ニ火打袋ヲ括リサクルイヲ様々
ノ説ヲ立之フノレト恐クハ隨カタキニ
ヤ後世ノ人ニ其利用ノヨロシキニヨルヘ
キモノニヤ敢テ制度ハアルヘカラス

火燧

袋ニ入ヘキ品々

火打鎌

火打石

火口

一名火糞 又火層
凡云或火朽凡

藥

錢

就竹

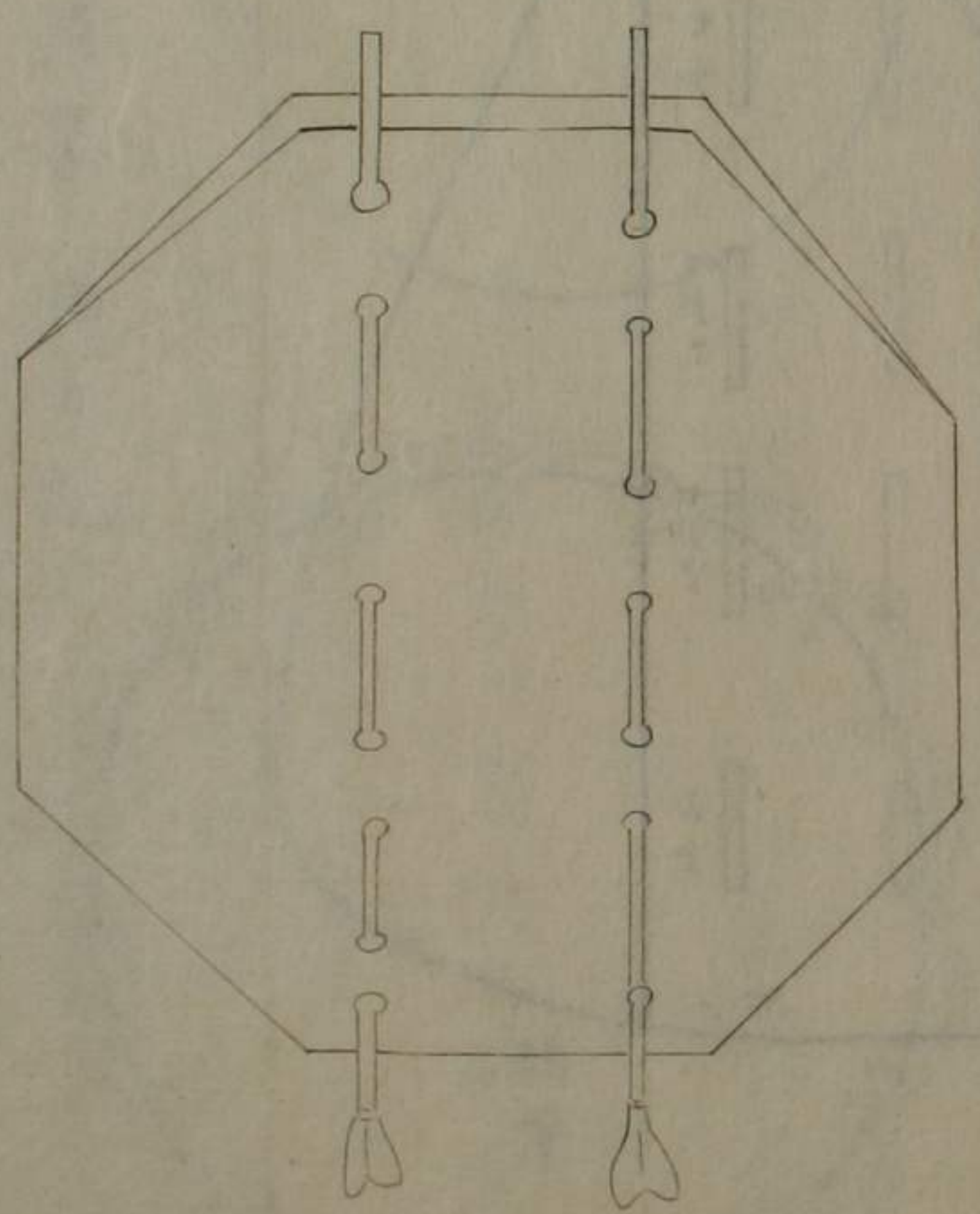
付竹凡

就竹ノ説般ニトメ一定ナラス故ニ奥ニ
其説ヲ記ス

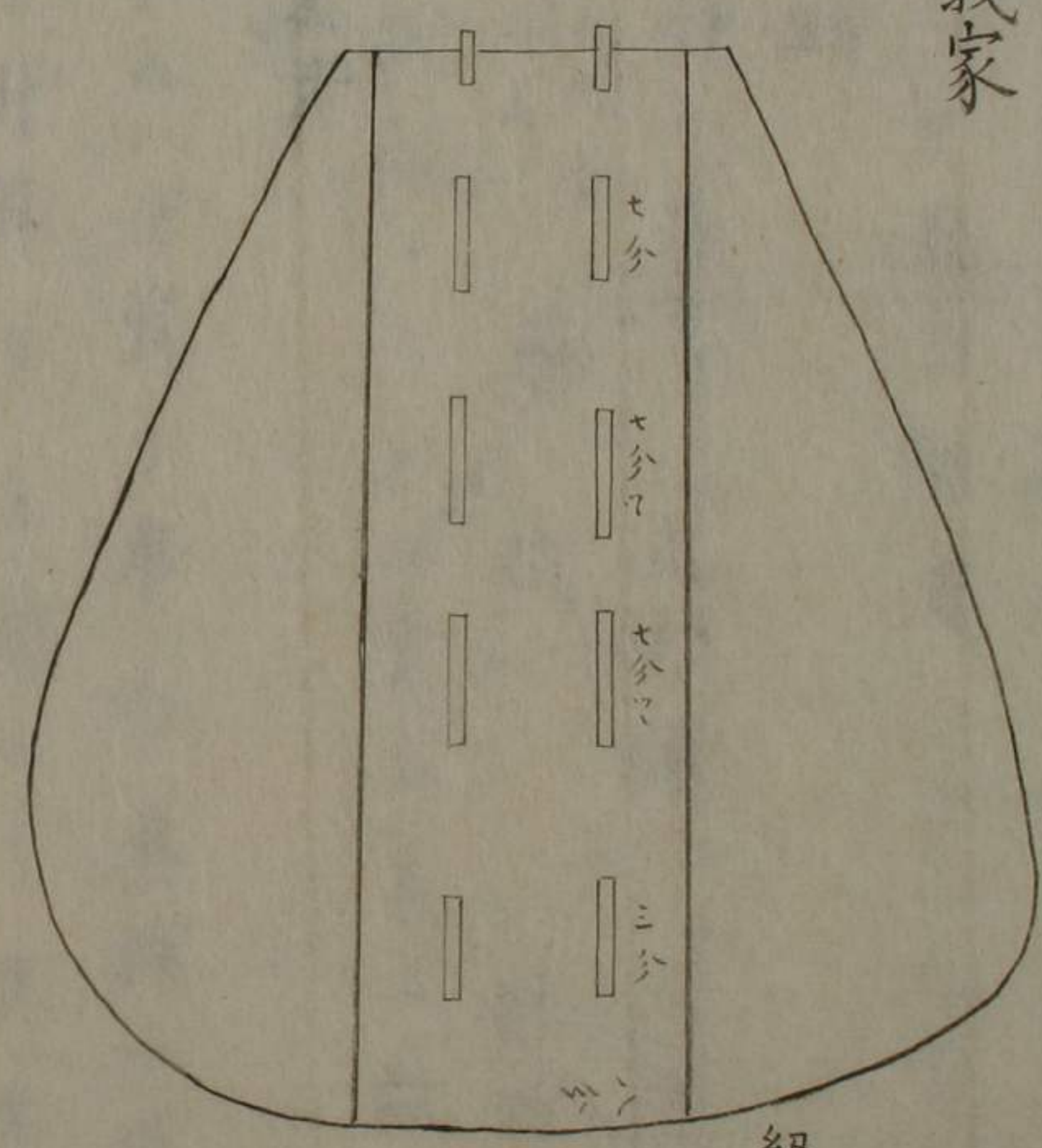
説云付竹ト云ハ付茸ノ事也其故ハ信州木曾
ノ山中ニ付茸ト云茵アリ其茸ニ火ヲ

ワカタラシ
稚足姫皇女

大和
錦紐
紫



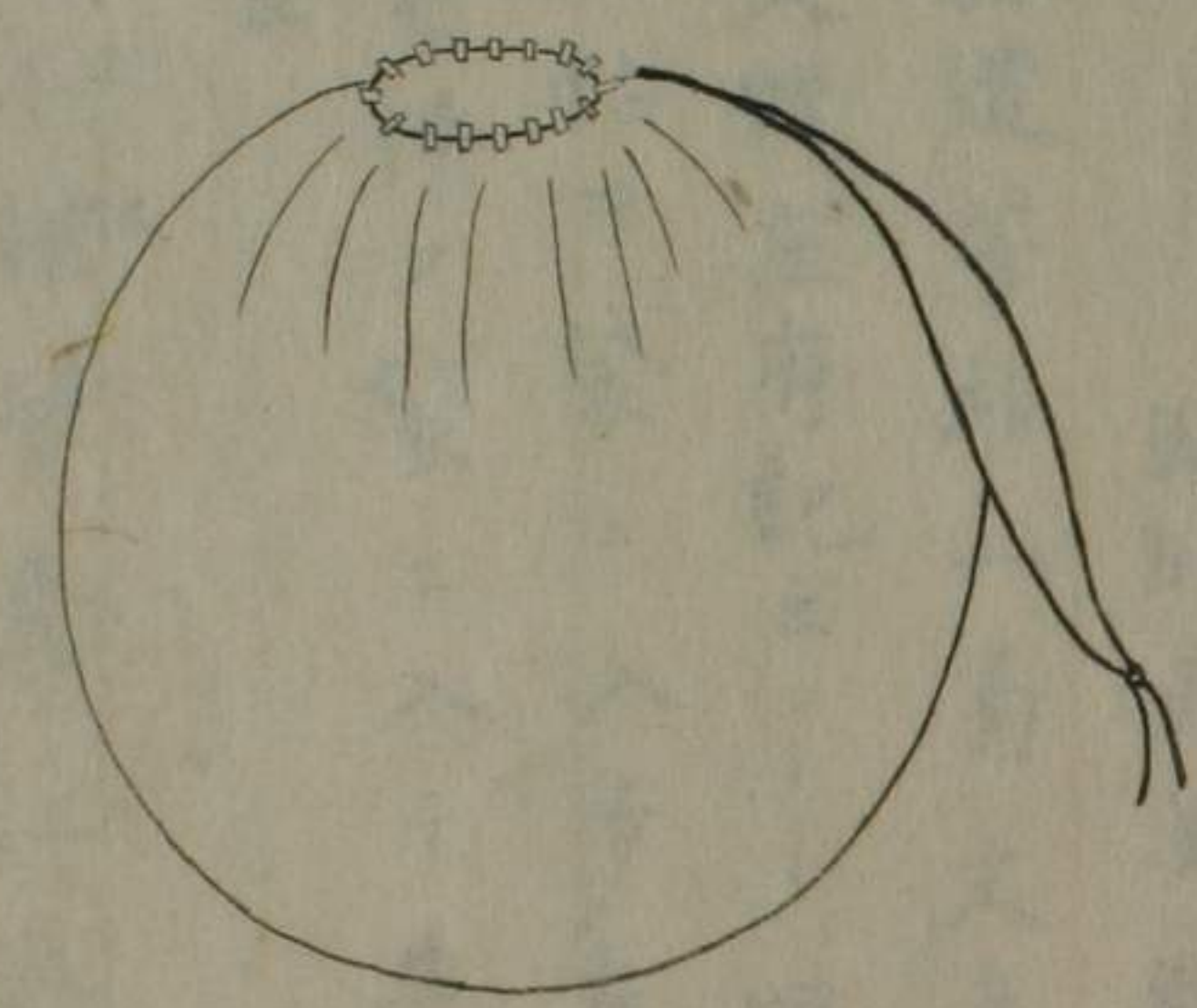
嚴 嵩 神 室
八 幡 太 郎 義 家



紐 紫

火 打 袋

口 ヲ シ ン タ ル 形



上 ノ 圖 ヲ ヒ ロ ケ タ ル 形

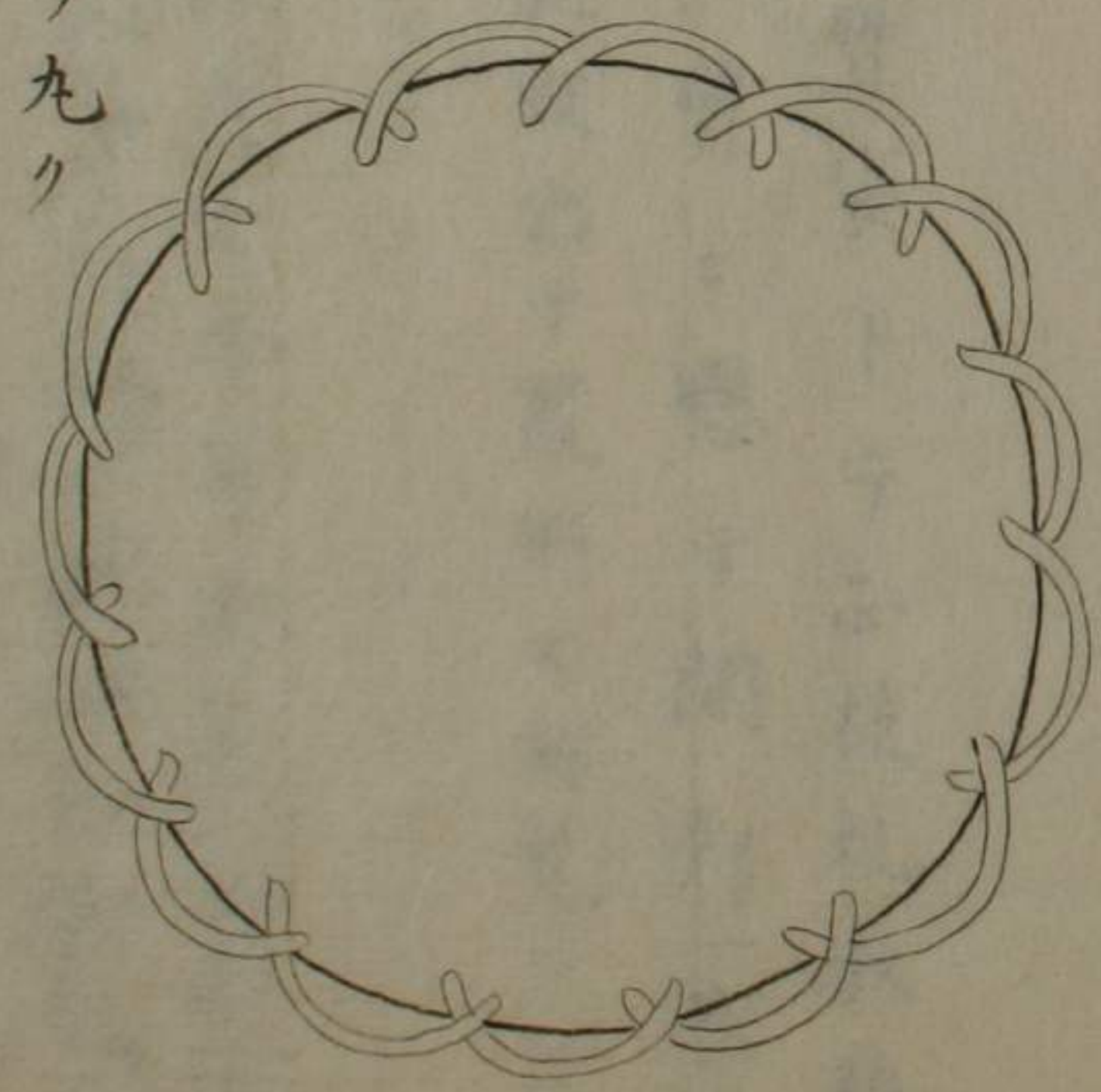


表 ハ 織 物 或 ハ 漆 革 ノ 類 ヲ 丸 ク
經 六 七 寸 程 ニ シ テ ッ カ リ ヲ 縫 テ 緒 ヲ 通 シ 提 ル 也

裏ハ縮ヲ用ユ但寸法ハ太刀腰刀或ハ人ノ好
ニ准ス一キカユニシカト定リタル十
キニヤ

臂袋

長秋記保延元四十八

賀茂祭

於唐鞍取江蒙主借也

韃加良美靴狭

用青皮縫之如臂袋

柱林遺芳抄一菊文夏

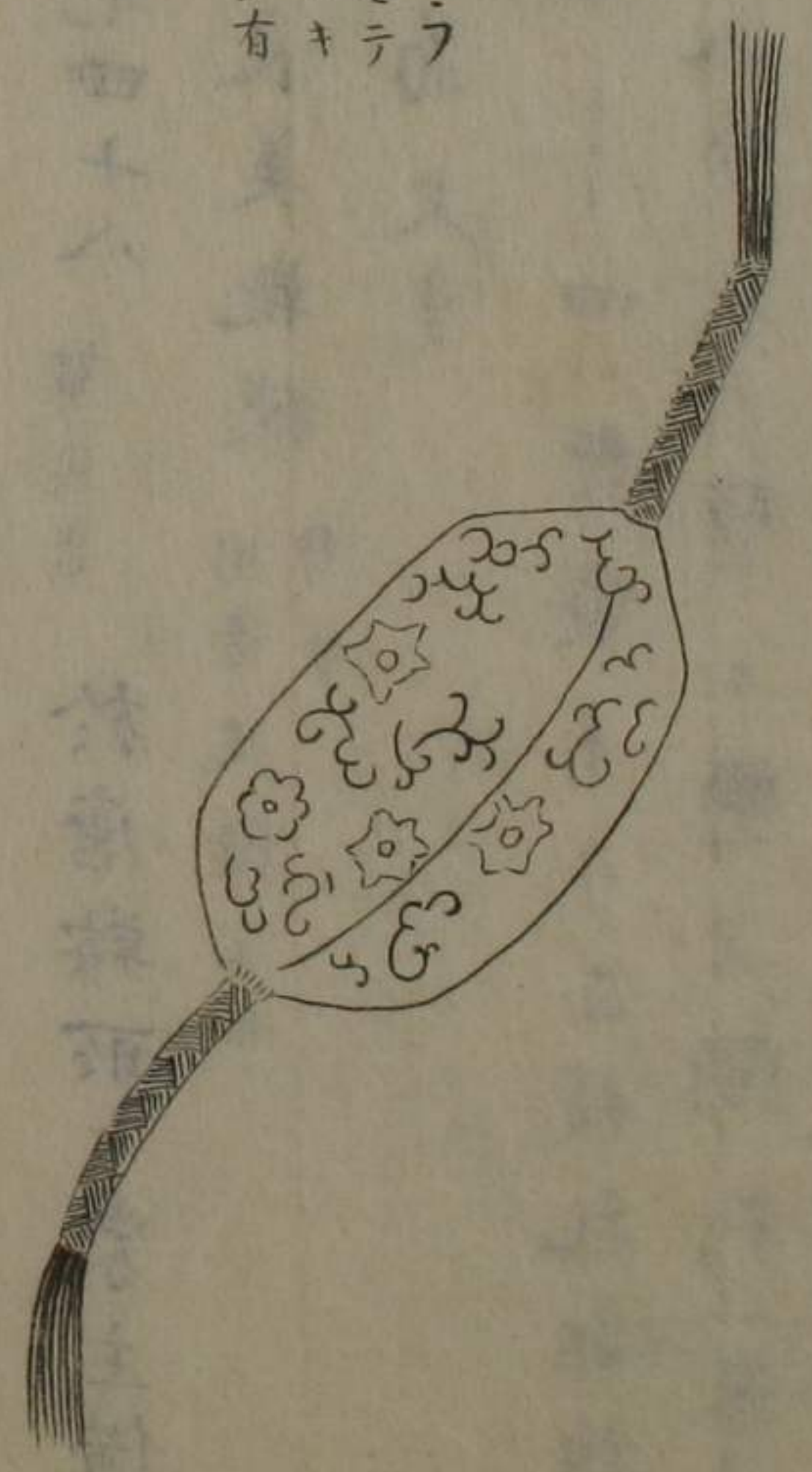
又贈左府記云、一曰ハ臂袋トテ正枝礼部類
一帖ヲ袋ニ入テ左ノ臂ニ懸テ間對一巻ヲ
毛件ノ袋ニ入テ其取取出テ置例モ取見アリ
云

好古小録臂囊江訖抄及古今著聞集ニ土囊作
ル假借也人車記云仁平四年六月廿日貢士等登省也
次貢士乘車隨身臂袋
有納物相具
浅沓
向朱雀門下 中畧

次試衆懸臂袋於左分註之長和平相之臂袋依重代
 物在家今度用之納千祿字各造紙幹按造硯筆
 各一紙屋紙三枚或入濕紙於硯或入硯瓶是為各字題
 字也而切韻押韻等入之今度強不入之臂袋製傳ラス
 惜ムハシ

ヒ千フクロ

ウ
 ヲモテ
 フカキ
 ヒク有



隨身符袋

大唐六典牙門下首隨身魚符之制左二右一之

隨身魚符
 之並以袋

盛其袋三品已上飭以金五品以上飭以銀六品以下守当

已上者不佩魚

公式令凡親王及大納言以上並中務少輔五衛佐以上並
 給隨身符左二右一右符隨身左符進内其隨身者
 仍以袋盛

屍風袋

大安寺流記資財帳云合種物帑貳拾捌口

仙物 = 十口之中
中畧屍風袋十六口

宝順袋

大安寺流記資財帳云合種物帑貳拾捌口
+ 仙物 = 十口之中

宝順袋二口

針袋

萬葉類葉抄

袋部

さうさうさうあけよよあふうさハ
さうさうあけけかうはとくに
目安云針袋ヲ頭ニ懸ニ

下畧

針袋 一ハ多クハぬさうさう今ハえトハねむ分さひさ

藻塩草

袋

ハリ袋 コレハタテスハリ袋ヲハ
ハリ
ミテル フ羽サイ

双六調度袋

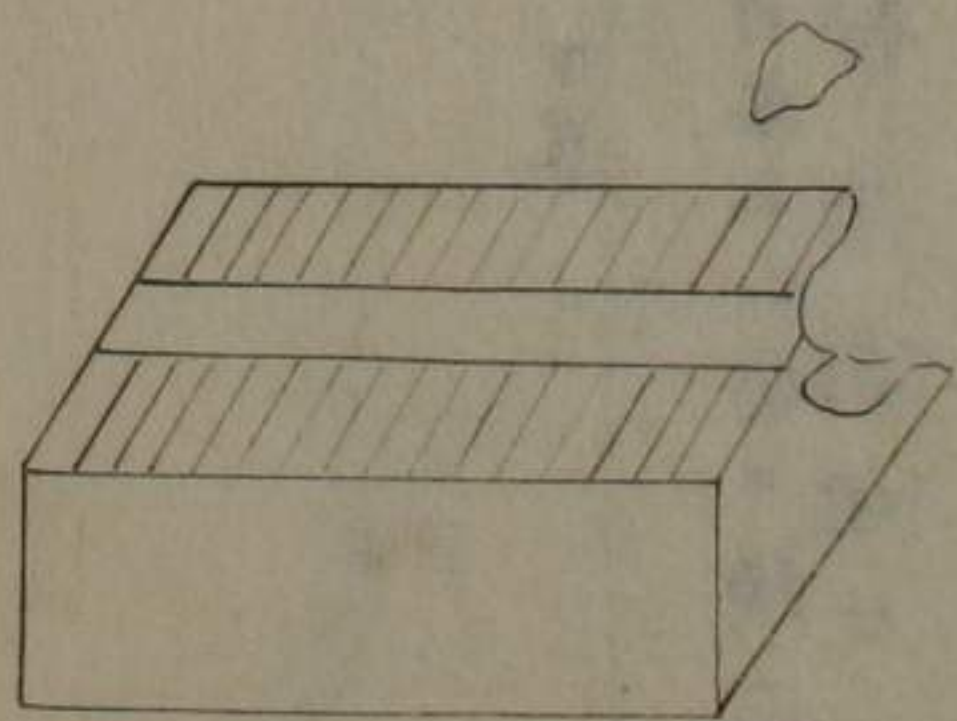
岷江入楚

初音

管弦ノ器皆袋ニ納本儀

琵琶ノ袋ハ面錦ウラハ唐綾ナトニテ双六ノ調度フクロノヤウニシリカタヲマロニシテフセクミハウスヒラトヒクヲフスイノハリヲストイ一リ

職人歌合繪



嵬 褐袋

東宝記才六

安置聖教

一三十帖策子

延喜十九年十二月二日從内裡被給納件策子草間一合有錦縫立嵬褐袋又左弁官下東寺勅各一枚

拾芥抄上未目錄二樂器部第三十五

和琴

字多

入嵬 褐袋

朽目

入同 袋

或記云錦縫立嵬褐袋

右延喜年中東寺三十帖策子聖教草管一合之

袋從朝廷賜之委細旨出延喜御記之条見或記

唐土訓蒙圖彙九器用

藥囊



麻袋

藻塩草

袋

ぬさ袋

あまうりたる人のぬさ袋とむし
ふらふら入るつらさきとて
袋とすき袋と垣氏

拾遺集雜三

あまうりける人のぬさ袋と
ふらふら入るつらさきとて

袋とぬさ袋とふらふらと細のやうにきつる

拾遺抄物云ぬさふらふらと細のやうにきつる

袋とぬさ袋とふらふらと細のやうにきつる

ルタモノ名ナリ源氏ニイクラモニエタリ

夕・シ歌ニヨマレタルコトハ是斗也

好古小録 麻囊ハ豊前國宇佐ノ辺ニハ古製
傳リテ今猶此ヲ用ユ竹ニテアミタル篋ナリ
竹篋ヲフクロト云ハ餌袋ト同意ナリ其又
廿今ハ縑帛ハ用ヒスイロ々ニ染タル紙
ヲ用ユ袋ノヨリコホレテミユル体源氏物
語ニ色マコホレ出タルミスノツマ々スキカケ
ナト春ノタムケノ又サフクロニヤトオホユト昏
ルケニモトオモハレ侍ル 近來好夏家錦繡
ヲモテ製メ又サフクロトテ翫フハ無枕音
ノモノ也

藥袋

延喜式

神祇五

初齋院裝束

藥袋

三十四枚

平家物語 カンヤウ宮ノ一

藥ノフクロヲ十ヶ合セタリツルキ藥ノ袋
ヲカキシル十カラロ六尺ノ銅ノ柱十カラ
マテシリキフケリケル

物具裝束抄

一手振事

冠卷綫

藥袋

御禊行幸服飾部類

康治元信範記云節下内大臣

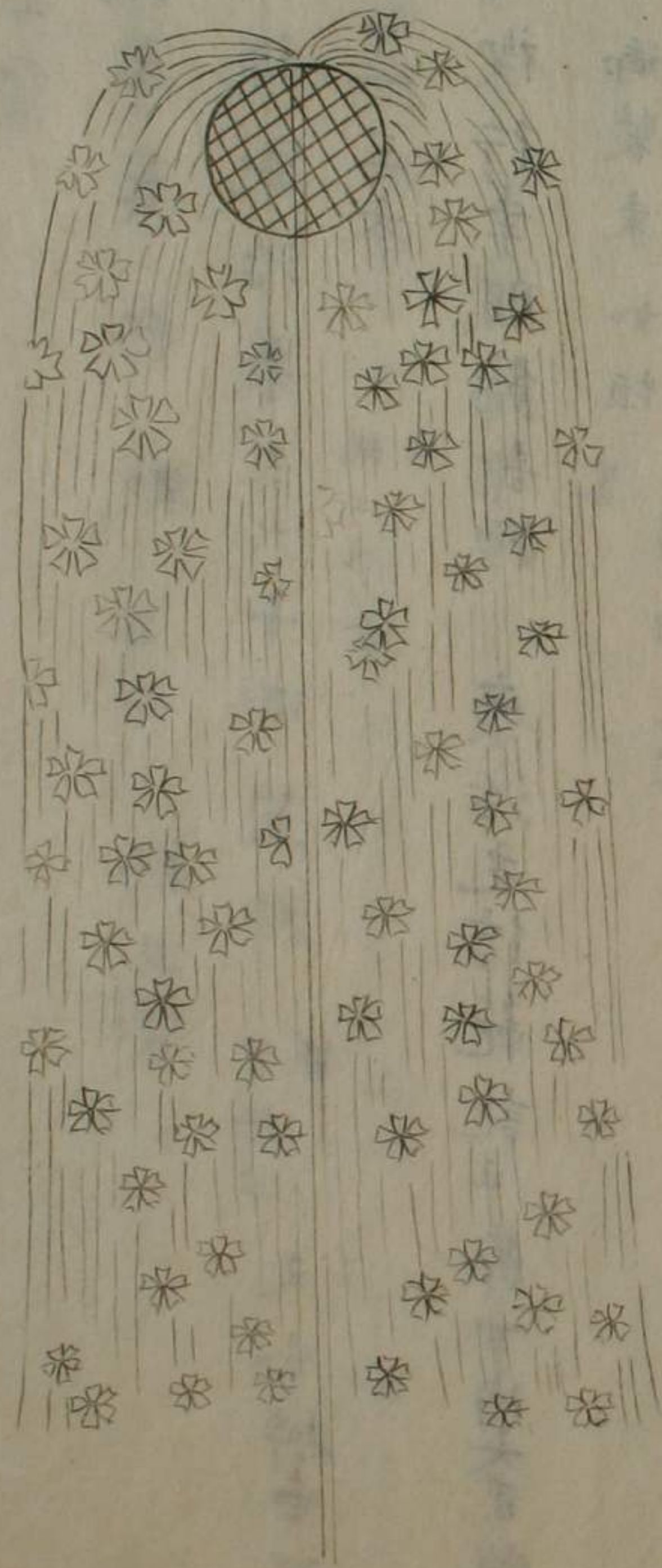
殿御裝束如恒

畧 手振十二人

畧 藥袋

黑漆螺鈿九緒
并蒔芳未濃

緒



麻囊

豐前國宇佐
兩傳製

么敬仁按

長一丈
件紙華以糊粘

年中行支追難之圖



柄立袋

桃華菜葉 鞭 蒔繪 柄立袋

山槐記治養三十六十四笠持 付柄立袋 又令持白柄

笠三本 料 籠二人 舎人

御禊行幸服飾部類 康治元信範記云 節下内大臣殿

御装束如恒 畧

御唐鞍 畧 錦柄立袋

杖袋

兼盛集 六 又御杖ノツクロニ

なよけのよけの杖とびらきより 八百丁の杖の柄はるめ

鞆袋

延喜兵庫式鞆袋料紫表緋裏帛各一條

長右

二尺二寸
廣一尺一寸

本朝軍器考

天子ノ御弓ノ制——御弓袋

モ御鞆ノ袋モ皆帛ヲ以テ作り紫衣ニ緋裏セリ

紗袋

伊勢物語御抄 一西院ノミカト

一螢ヲトリテ 五月ノ比ナレハ螢ヲ紗ノ

袋十ト入テモツ欵

闕疑抄上 ムカシ西院ノ

此車ノ女車トミテヨリキテトカクナマメク

間ニカノイタル螢ヲトリテ女ノ車ニイレ

夕リケルヲ車ナル人——女車ト見テ業

平ノヲシナト同車々シタヲ女ハカリトミ

テ同クルヲトリテ五月ノ比ナレハ螢ヲ紗ノ囊

十ト入テモテ間ニヤ——源氏螢ノ巻ニ玉

カツラノ君ヲ兵部ノ宮ニミエ奉ムトテ
源氏ノホタルヲウスモノニツ、ミテミスノ
ウキニイタサレ云々

鑰袋

延喜式 十一 凡鑰袋皆以牛草縫造若有損破
者中省請換

旗袋

本朝軍器考古ノ旗袋ノ式シルセル物ハイマタ見ル
事ヲ得ス上野國新田俊宗ノ家ニ傳ユシ義家
朝臣ノ旗ノ袋ヲ見シニ誠ニ古代ノ物ト見エタリ倭
錦ノ赤地ナル亀甲ノ紋アルニ白キ生絹ノ裡ヲ打
長廿二尺九寸其幅一尺二寸四分ナルヲ半ヨリ
折テ中ヲ縫合セテ袋トナス。左右ノ縫ハツシノ
取四寸五分ツ、アリ。其縫ハツシノ際ニ紅ノ二ツ
折ナル緒ヲ二尺余ツ、ナルヲ折シ取ト中ト
二取ニテ表ノ方ニ見ユルヤウニ横サマニ刺
縫ヒテ縫ハツシノ方ニテ緒ノ余レルサキ

ヲハ結ヒシナリ 其式ハ別ニ因ニ
ツクレリ

太平記 足利殿上洛 此旗ヲサケテ凶從ヲ御退治候(トテ錦ノ

袋ニ入十カラ自ラ是ヲマイラセラル

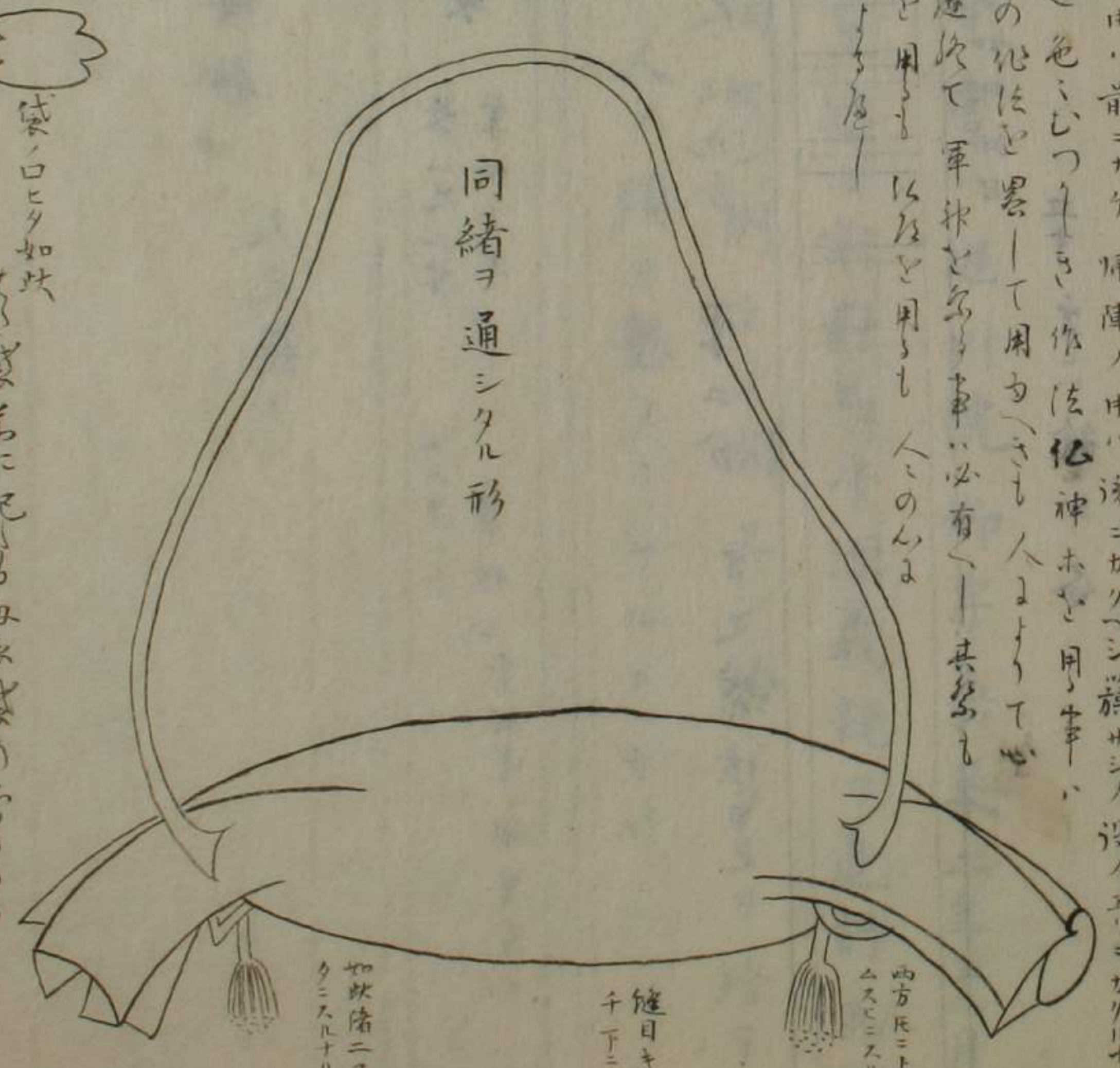
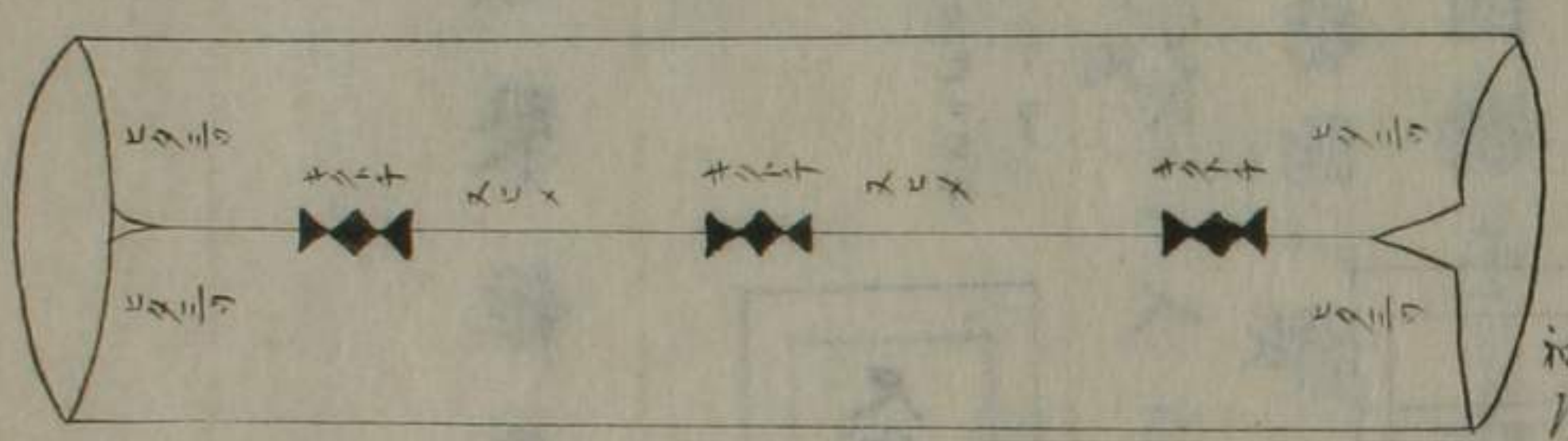
軍用記 旗袋此車太鼓の赤地の綿裏に綾のよと甘下長三又廣さ

七寸但是ハ袋ノ縫う付の大(一)筒の如く縫て両方ニす(一)縫のこ(一)
 不(一)ころを(一)下(一)縫めの方(一)ニ所(一)兼(一)ち(一)付(一)る(一)縫(一)め(一)と(一)下(一)り(一)お(一)ひ(一)め(一)六
 寸(一)ニ(一)縫(一)し(一)て(一)右(一)方(一)分(一)て(一)二(一)寸(一)の(一)紐(一)諸(一)と(一)縫(一)て(一)下(一)端(一)の(一)両(一)端(一)八(一)寸
 寸(一)の(一)布(一)よ(一)り(一)縫(一)し(一)て(一)一(一)寸(一)の(一)布(一)に(一)て(一)も(一)縫(一)て(一)用(一)し(一)二(一)寸(一)の(一)縫(一)の(一)こ(一)
 づ(一)ら(一)右(一)方(一)一(一)寸(一)の(一)縫(一)め(一)此(一)旗(一)の(一)中(一)に(一)付(一)る(一)

旗袋

又 軍用記

旗袋 出陣ノ中ハ前ニカケ 帰陣ノ中ハ後ニカクヘシ 旗サシノ 役人エリニカケルナリ
 右ハ古仕立様傳來の説ニ色(一)む(一)つ(一)り(一)し(一) 作法(一)伝(一)神(一)本(一)を(一)用(一)し(一)事(一)ハ
 旗(一)と(一)神(一)ノ(一)ヤ(一)ル(一)カ(一)右(一)の(一)化(一)は(一)と(一)異(一)り(一)て(一)用(一)方(一)も(一)人(一)ノ(一)ヤ(一)ル(一)て(一)也
 治(一)方(一)に(一)一(一)旗(一)縫(一)て(一)軍(一)中(一)に(一)必(一)有(一)一(一)其(一)袋(一)も
 神(一)ノ(一)用(一)し(一) 以(一)な(一)と(一)用(一)し(一) 人(一)ノ(一)心(一)也



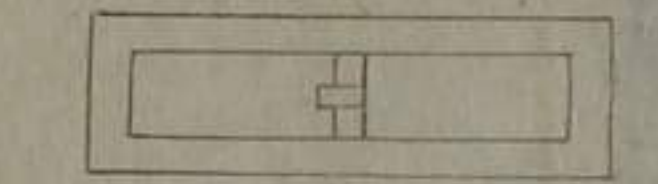
袋ノ口ヒク如ク
 袋(一)に(一)記(一)し(一)母(一)衣(一)袋(一)の(一)如(一)く(一)も(一)
 縫(一)一(一)大(一)サ(一)の(一)入(一)程(一)ナ(一)リ

如(一)旗(一)諸(一)ニ(一)マ
 タ(一)ス(一)ル(一)ナ(一)リ
 縫(一)目(一)キ(一)ク(一)ト
 千(一)下(一)ニ(一)ナ(一)ル(一)ニ
 西(一)方(一)尺(一)ニ(一)シ(一)ホ(一)ウ
 ム(一)ス(一)ニ(一)ス(一)ル(一)ナ(一)リ

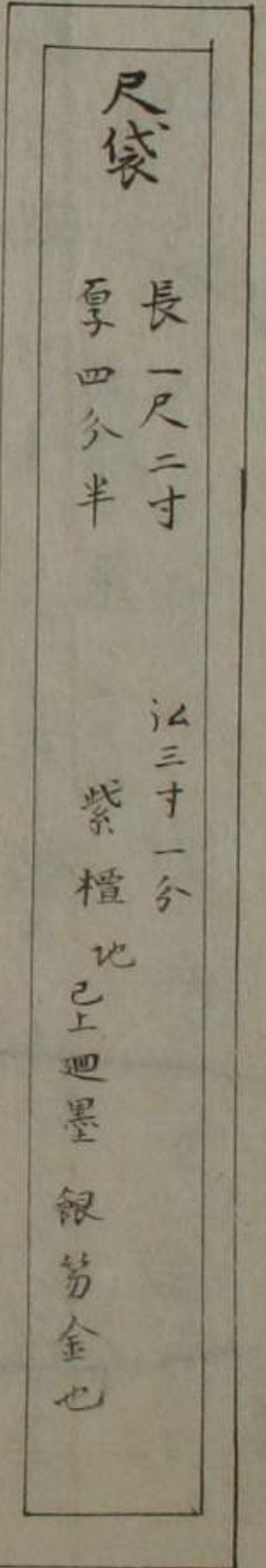
尺袋

類聚雜要抄四

又尺箱云々



中ヲツカヒニシテ
管回ケテ
左右ヲ開
尺袋口形



尺袋

長一尺二寸
厚四分半

口三分一分
紫檀地
已上廻墨 銀笏金也

長一尺 口九分 厚二分 牙又紫檀用之



五寸如此切目

五寸牙ハ繪斗各

紫檀繪ノ様螺鈿

驛鈴袋

盛衰記

廿三

今度ハ堀川院御宇嘉業二年十二月

ニ因幡守平正盛カ前對馬守源義親ヲ追討ノ為ニ

出雲國ハ發向セシ例トソ聞エシ鈴ハカリヲ給テ

草袋ニ入テ人ノ頭ニ懸タリケルトカヤ

坐袋

大安寺流記資財帳合種々物袋 貳拾捌口

袋二口

口 仏物二十
之中坐

手箱袋

明月記 廿二 廿七 巳時計 叅上御馬手箱等

被刷之間良久兼仰 中畧 手箱

取一同入
赤地袋

入長櫃在車前 中畧 私相未云此御手箱内有薰

物是ハ灵香麝香十卜 不淨物ハ不交供養香卜

テ別合可候也 中畧

筮著袋

周易傳義 筮儀

著 五十莖韜以纏帛 貯以皂囊 納之櫃中

載袋

好古小録載袋 古画ヲ以考ルニ無星ノ秤 兎方ノ

尺ノミ 近来一仏刹取傳ノ古物ヲミルニ其體後也

ノ物ニアラス 昏囊ノ如キハ 文昏ノ数ニ順テ其

製廣狭十リ載袋ノ如キハ 大畧一定ノ尺寸

アルモノトミユ

好古小録

載袋

口方一尺四寸深一尺
四寸表差組廣七分
訂流蘇 =
但訓七尺余
流蘇
一寸計



水袋

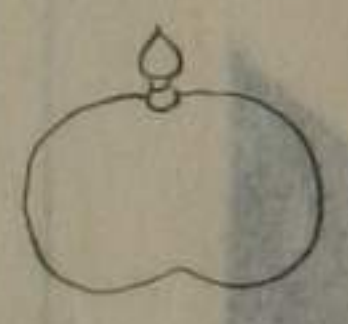
唐土訓蒙圖彙

浮囊

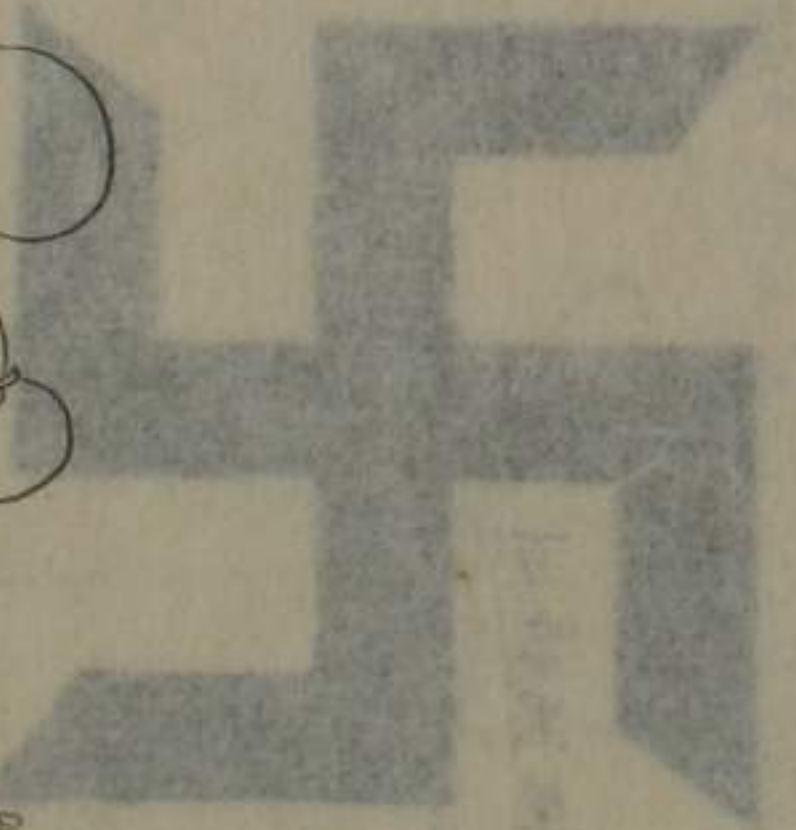
ウキフ
クロマリ

ヒツシノ皮
ニテツクル
水ヲワタルニ
用

水囊



水囊



母衣袋

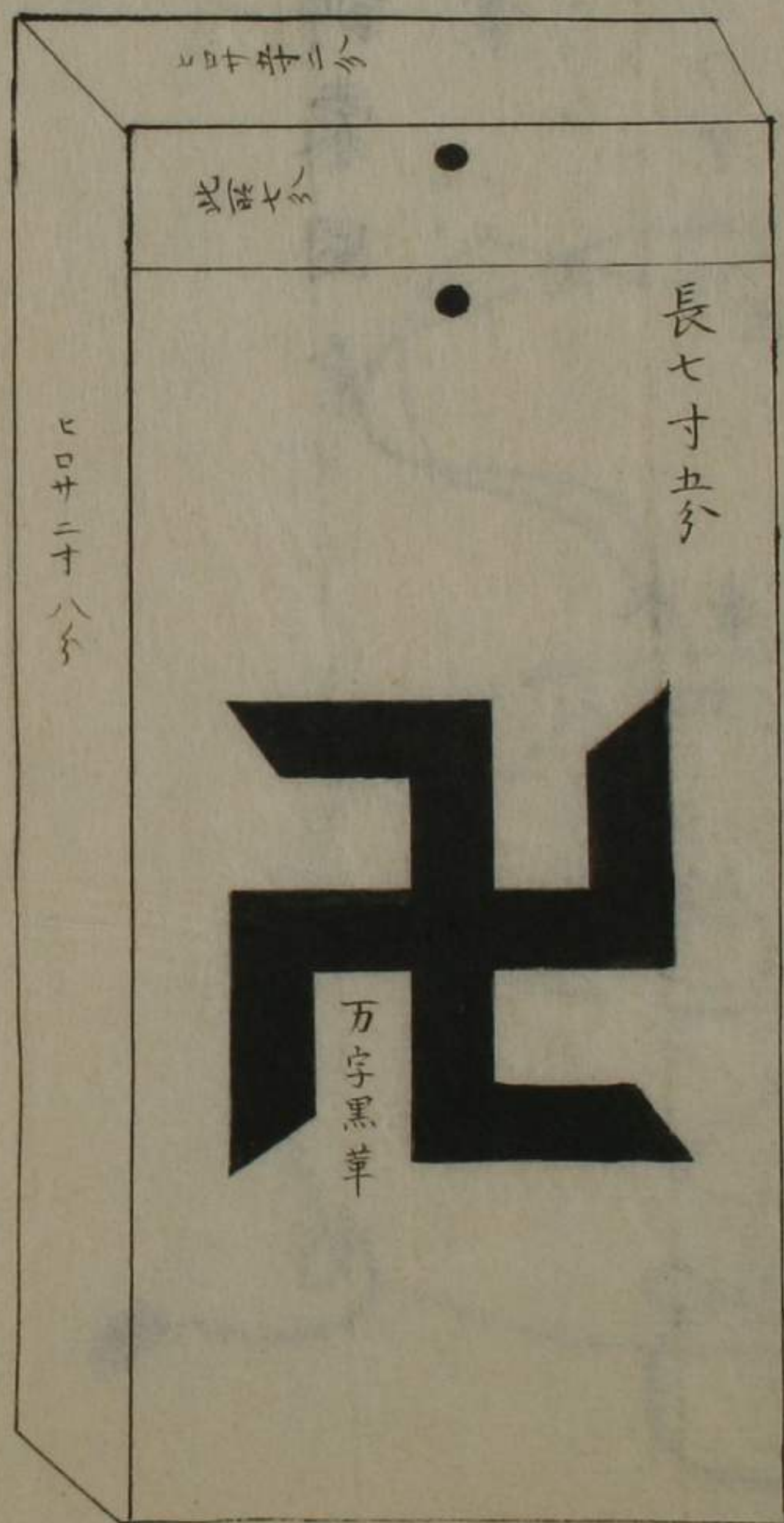
愚得隨筆曰

武者物語抄

母衣袋ノ事今ノ世ニ用ル人マレ也是モ大カタ

紙袋ニ入テ置下見ハタリ赤地ノ錦長七寸五分滴廿五寸一分
 分腋ノ廣廿二寸八分折カケ七分袋ノ中ニ万字黒革ニテ

付ル



太早記卷才二十三 京軍事

射テ名ヲ揚タリシ母衣ニトテ

元曆ノ古ノ畏祖那須子一資高ハ八島ノ合戦ノ汗扇ヲ
 薄紅ノ母衣ヲ錦ノ袋ニ入テリ送りタリケル

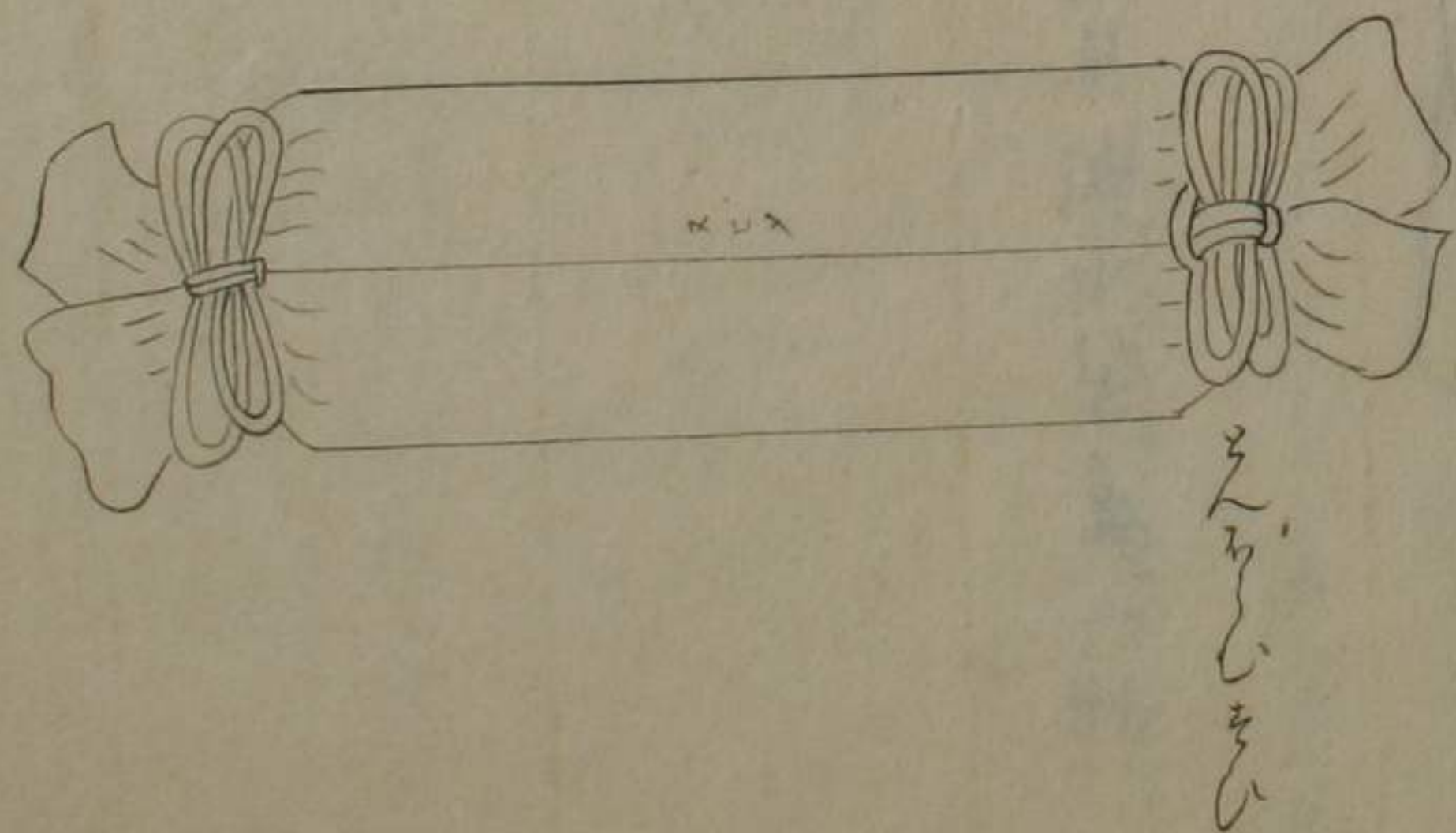
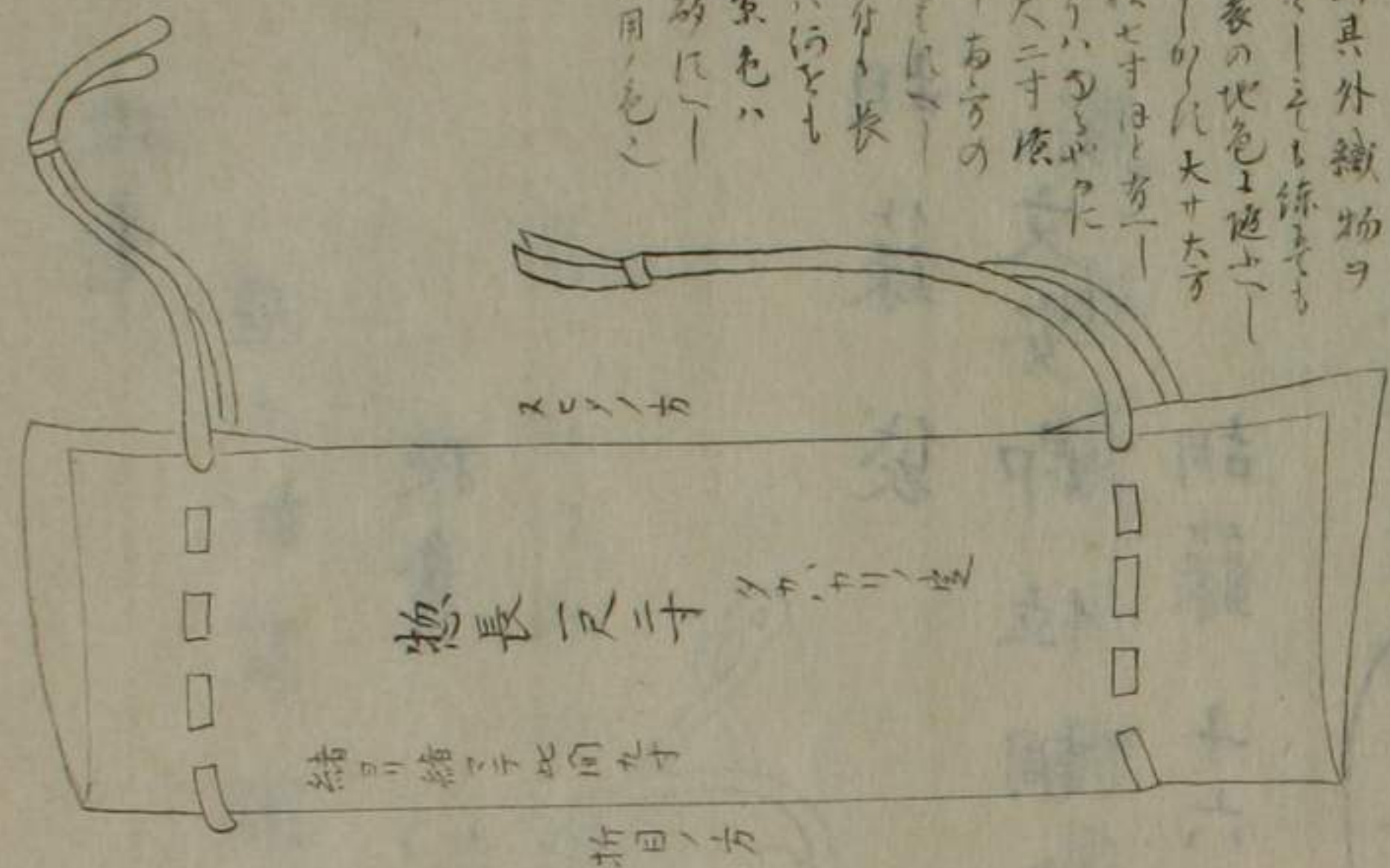
軍用記

伊勢貞丈昏述

保呂袋ノ図

保呂ヲ入タル図

保呂袋ハ錦具外織物ヲ
 施シ裡表一色ト録モ
 用一色ハ表の地色ニ施シ一
 色の毛も一色ハ大十六分
 差ニテヨ様七寸五分ハ一
 袋ニ共テ一尺ハ一
 一尺ニ一尺ニ寸五分
 口ニ縫ハ一
 四方ニ法ニ分ハ長
 一尺ハ一尺ハ一
 用カ一尺ハ一
 平人ハ研研ハ一
 將軍家ハ用カ一



狹囊

唐土訓蒙圖彙

狹囊

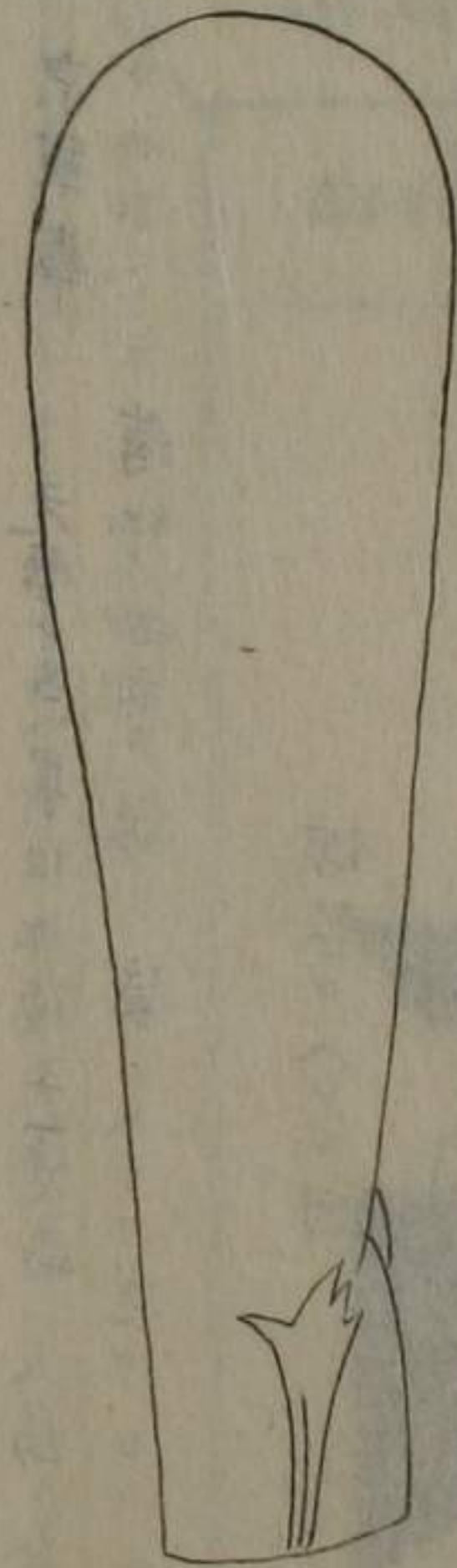
トウランハ
ナカミイレ



胡錄袋

文安即位調度記

胡錄十六 入紫袋



義經記

曾我物語

小笠原長秀記亦可考

瀉水袋

僧家ニ以三衣一鉢坐具瀉水袋為六物

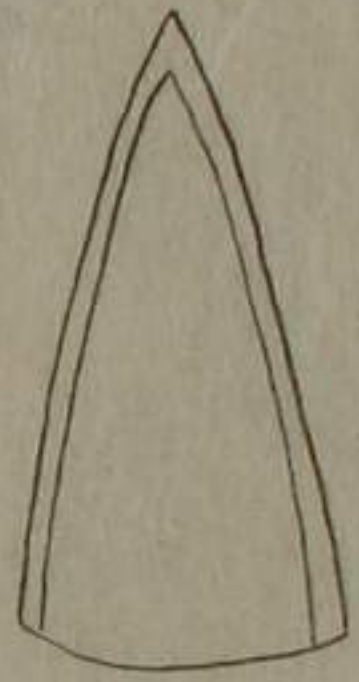


角袋

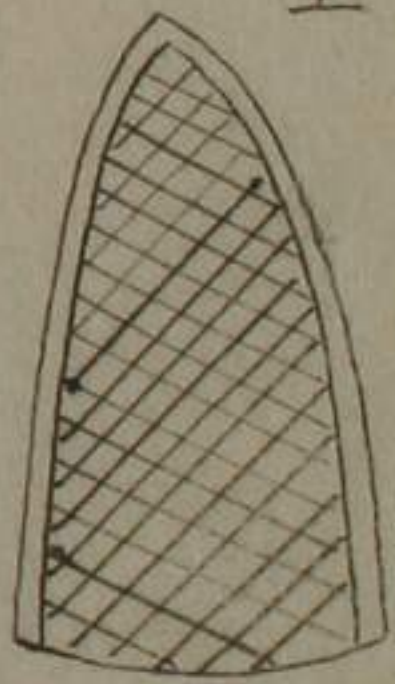
物具装束抄 一唐鞍具 角袋

春日神殿唐鞍繪

角袋



同上



下ニ先細ナル
金物ナルヘシ

諸鞍日記考註

伊勢平藏
貞丈著

又角袋として綿よて包みたる

カ子よて少先細なりと付く
頭の上より付く
角袋ハ馬
乃項の上西身の間は冠らむ先細なりと付く
袋のともよ
少一先細なり令物と付きて其令物と首蒲形のららに判と
今不りては一ちしておく形なり

尾袋

物具装束抄 一唐鞍具 尾袋

銘抄 尾袋長一尺二寸

延喜左工門寮式正月七日
青馬条ニ尾袋当額花
形已上一種
各著録

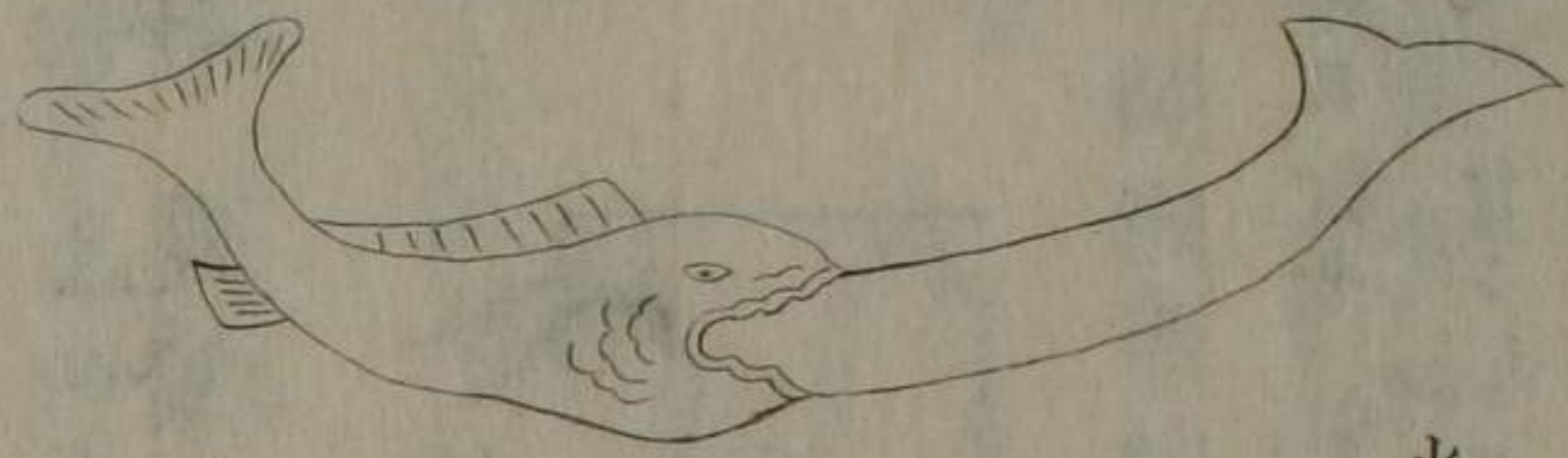


諸鞍日記考註

伊勢平藏
貞丈著

云又尾袋より尾袋唐尾を打て尾筒
入て付るなり此尾袋のたむは蝶のやうなりとの打て付るなり

臭袋



秦王之具

臭袋

臭吸臭之象也本末有臭尾也

吸臭金体作魚銀地被吸臭作魚尾无籍而腋

三通四漉欠之故自有筋二而以金裱張之地

總長一尺計尾久自下計之則凡六寸計自尾長

三寸五六分

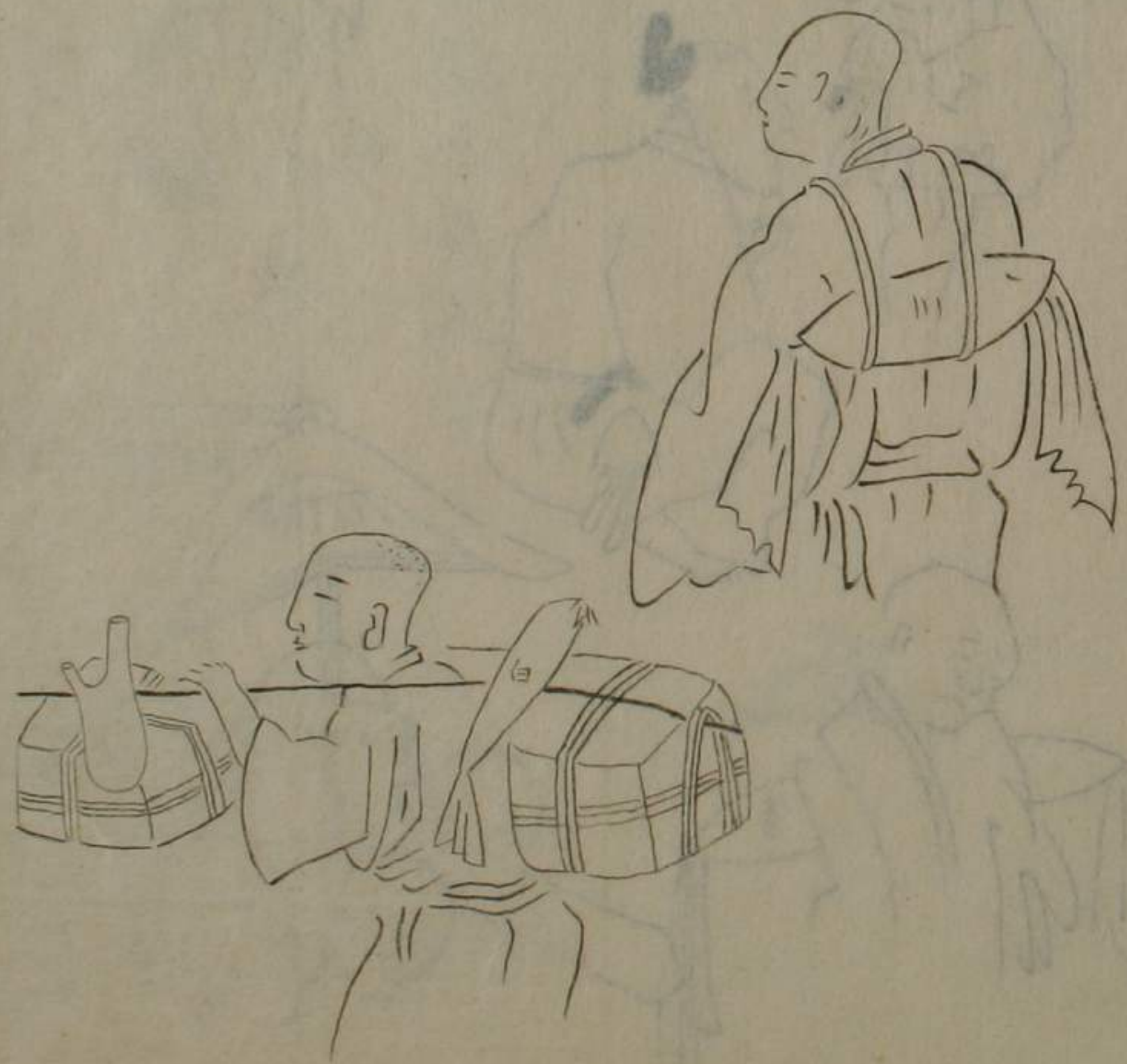
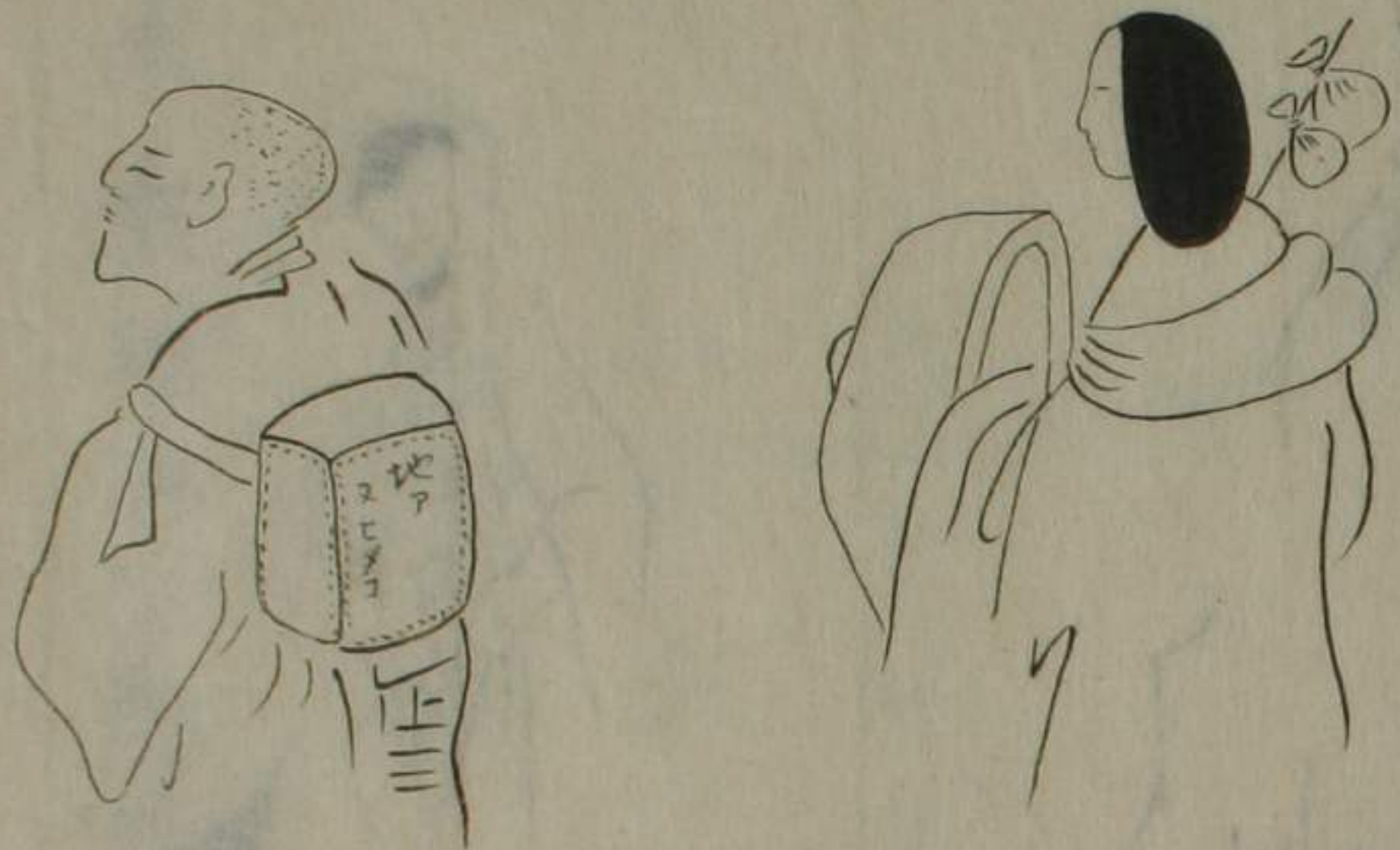
魚以在半厚一寸五分計橫三寸五分計但

吸臭之長總長三分之二也被吸魚三分

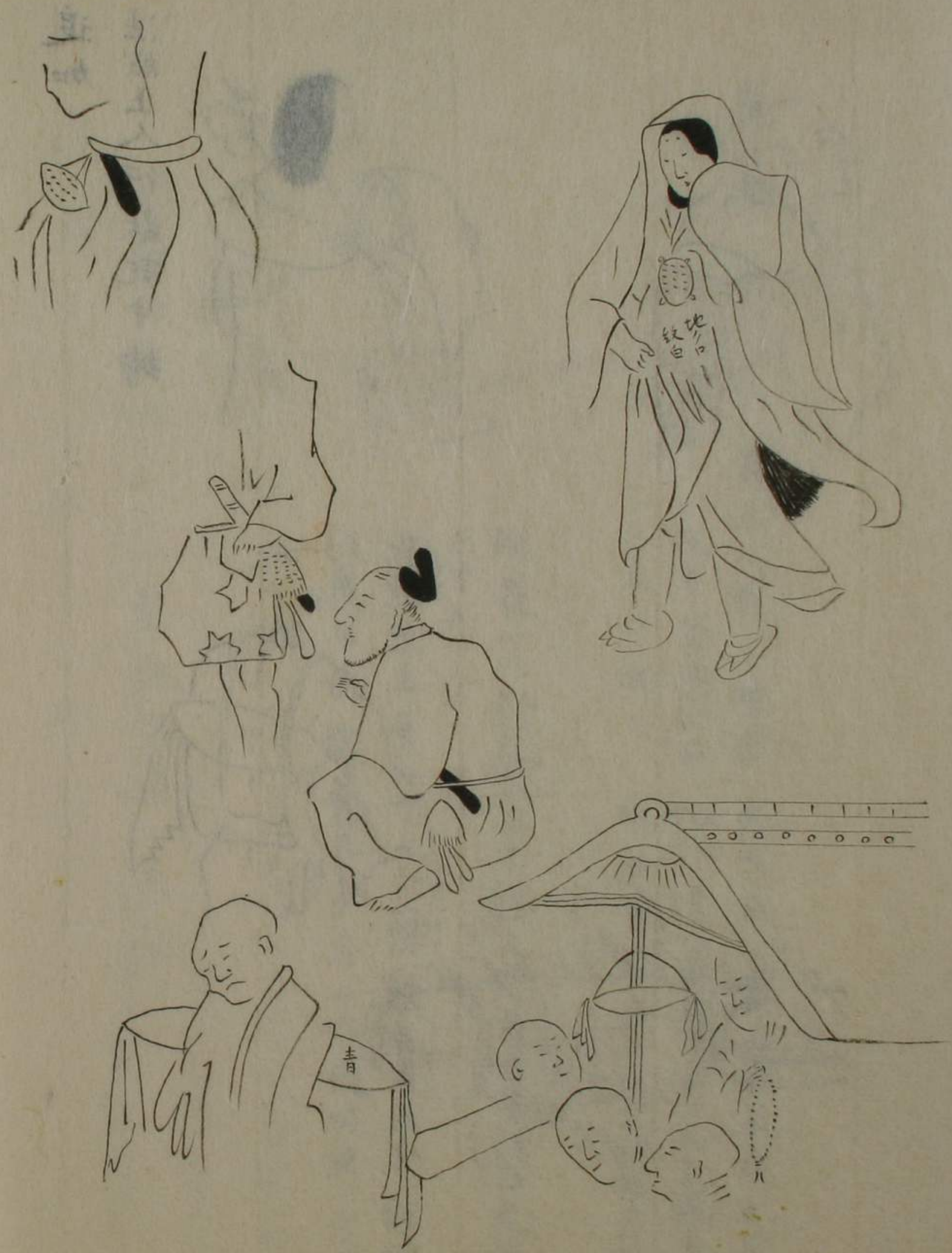
之一也

追加

法然上人行狀記中繪

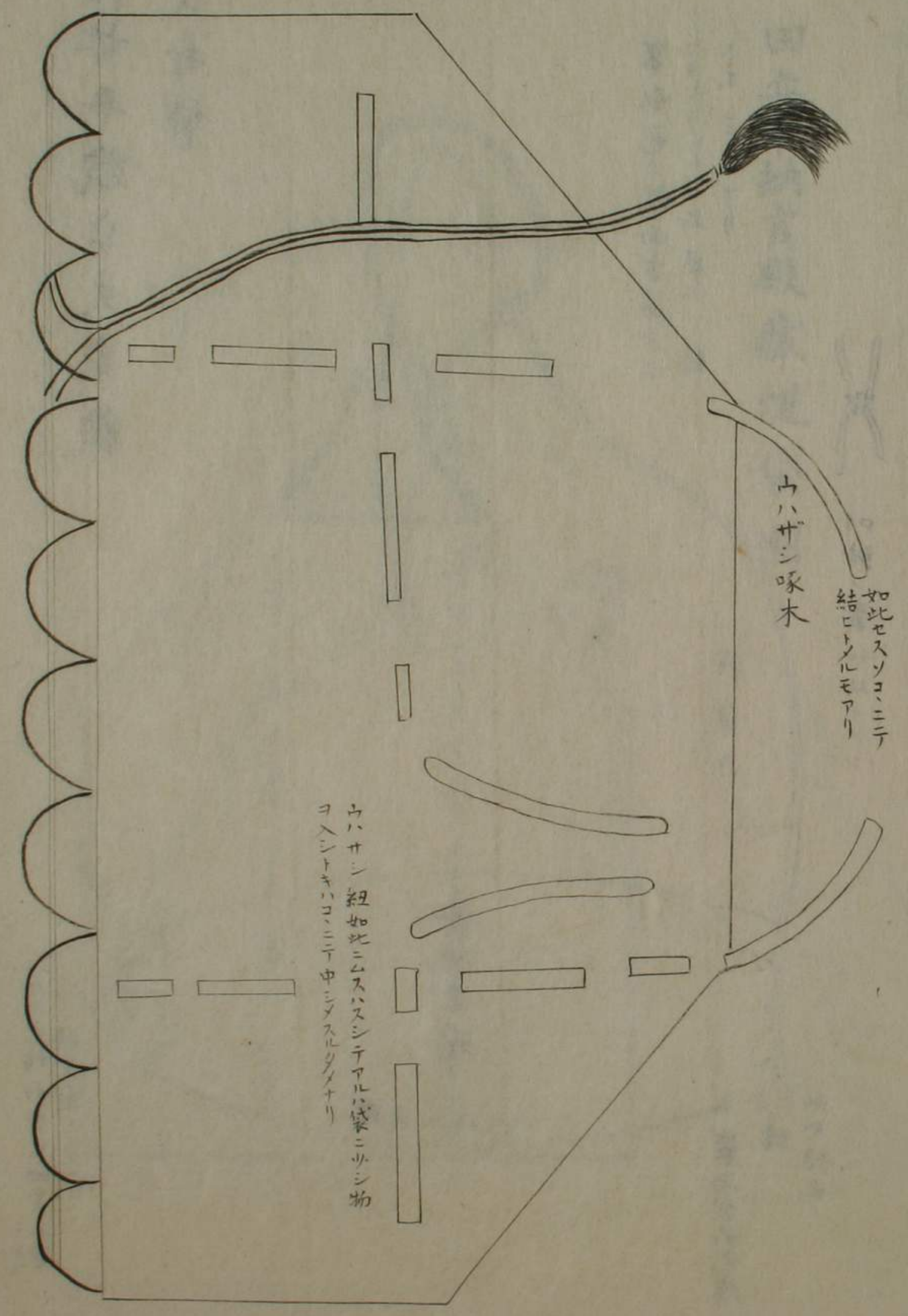


素囊輻湊下卷終



右橐囊 輻漆二卷者
 滋野井被為秘藏本也
 此頃遂一覽間令昏寫者也
 畏可秘藏云云

藤 西

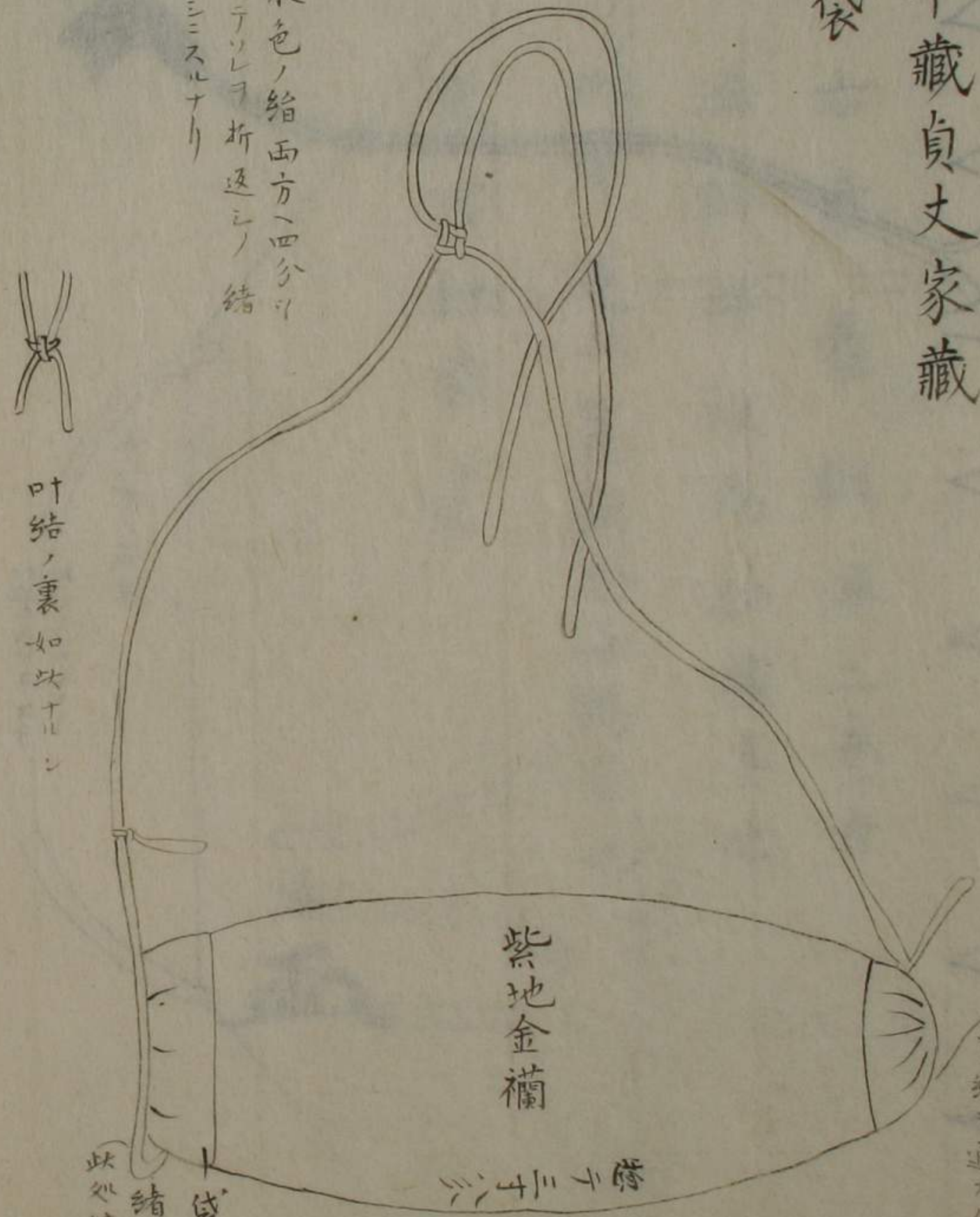


如セスソコニテ
 結ヒトルモアリ
 山ハサシ啄木

山ハサシ紐如地ニムスハスシテアルハ袋ニカシ物
 コ入シトキハコニテ中ニツルタナリ

伊勢平藏貞丈家藏
火打袋

裏水色ノ緋西方四分
フカヒテソレヲ折返シノ
トホ、シミスルナリ

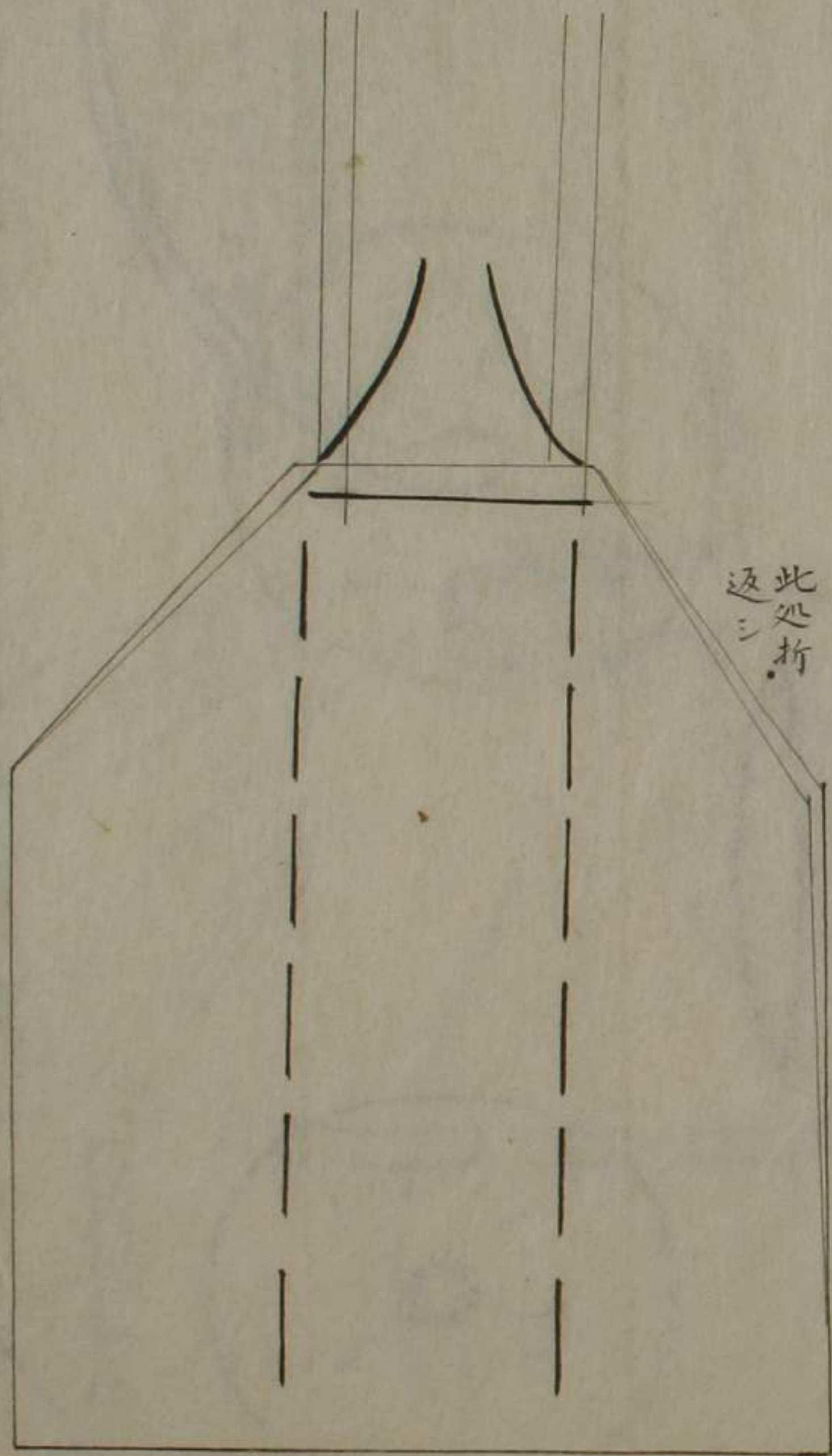


此水色緋西方四分
中ニ結ヲ通スクニ

袋西方水色緋
此處結也

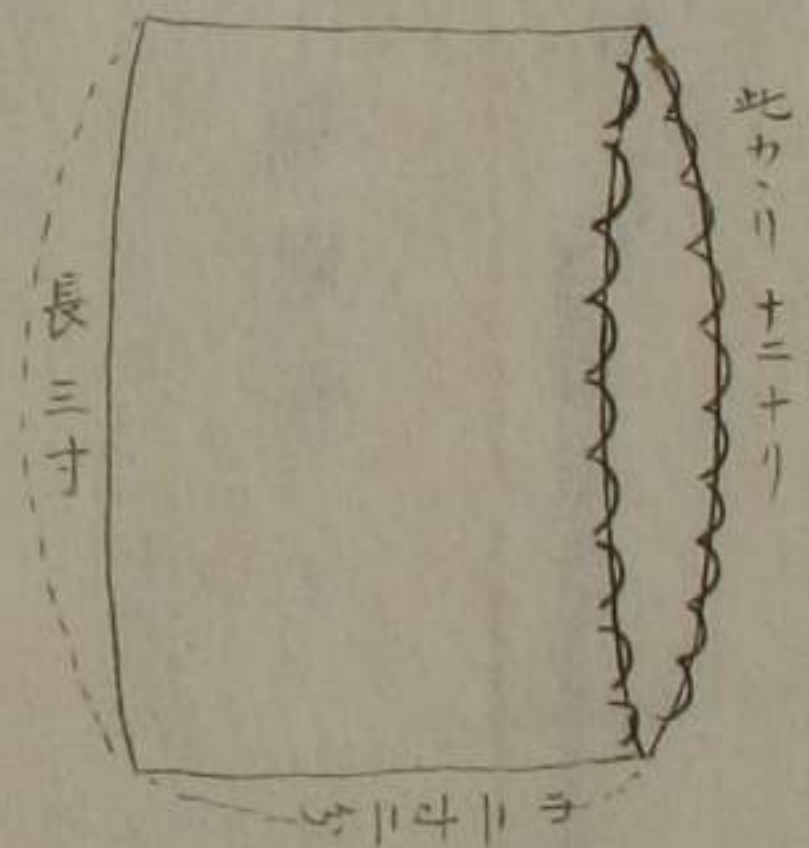
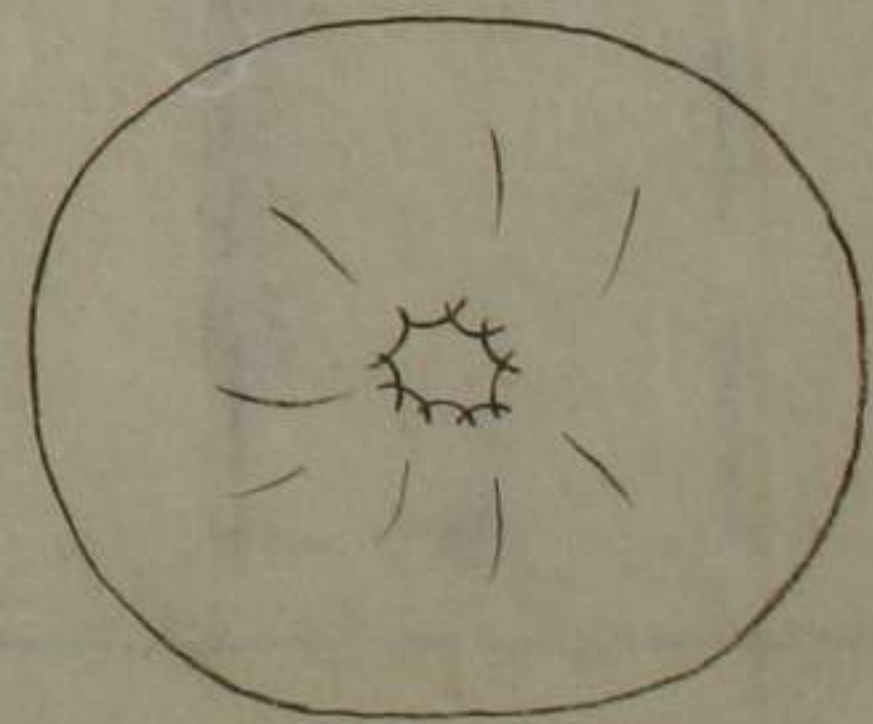
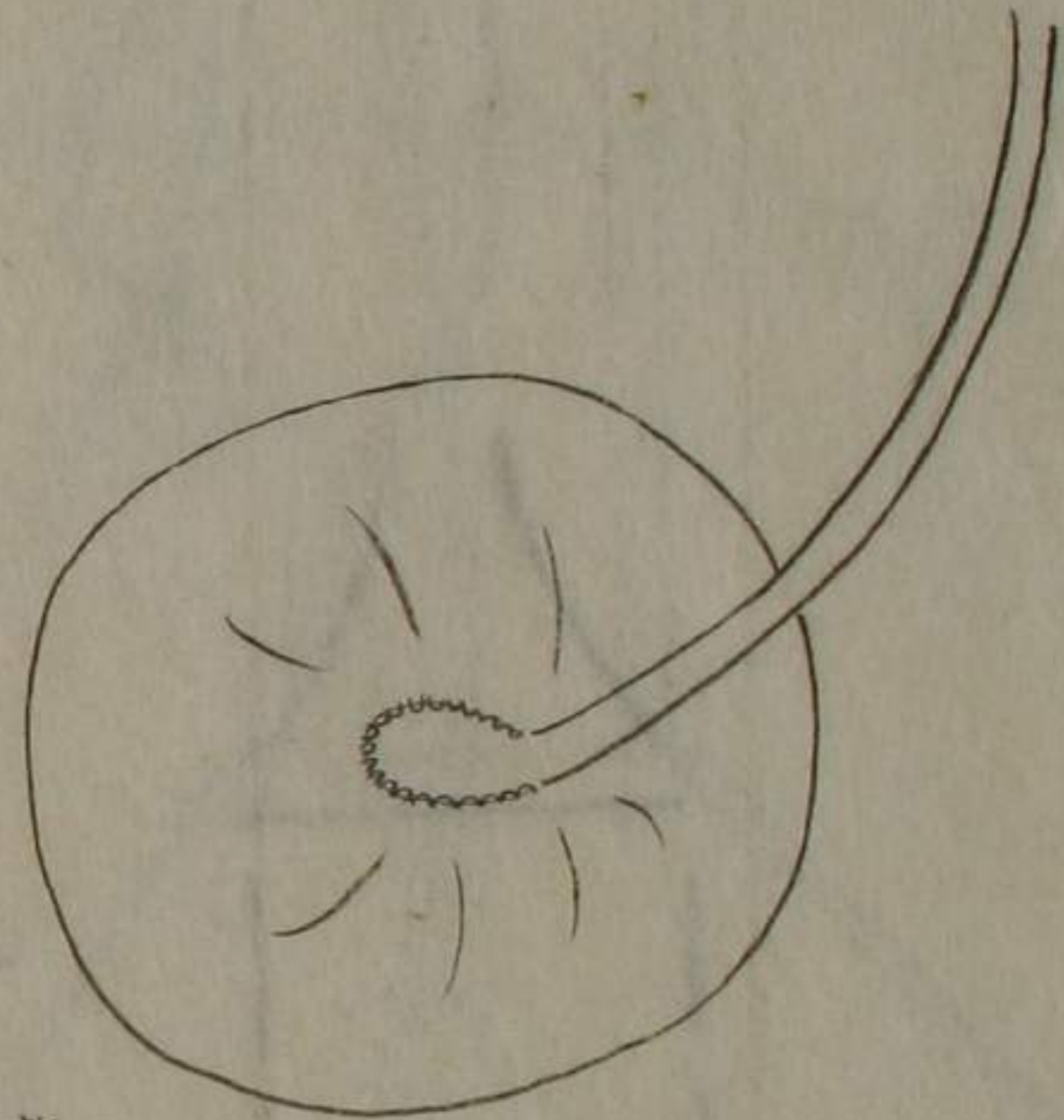
田安中納言殿藏燧袋圖

別有形



此處折返シ

青砥左衛門燧袋圖 別有形

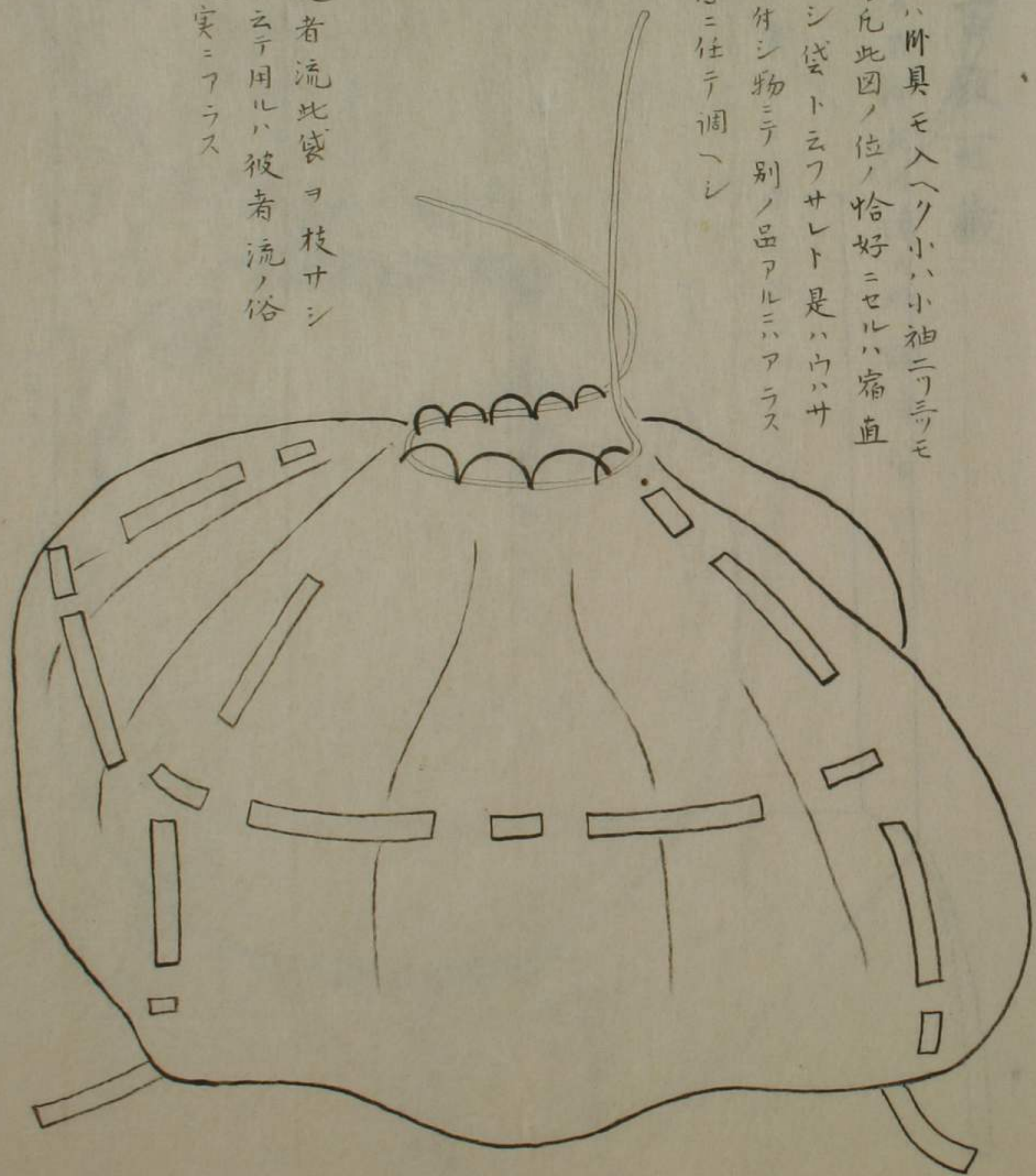


長三寸

此カ、リナニナリ

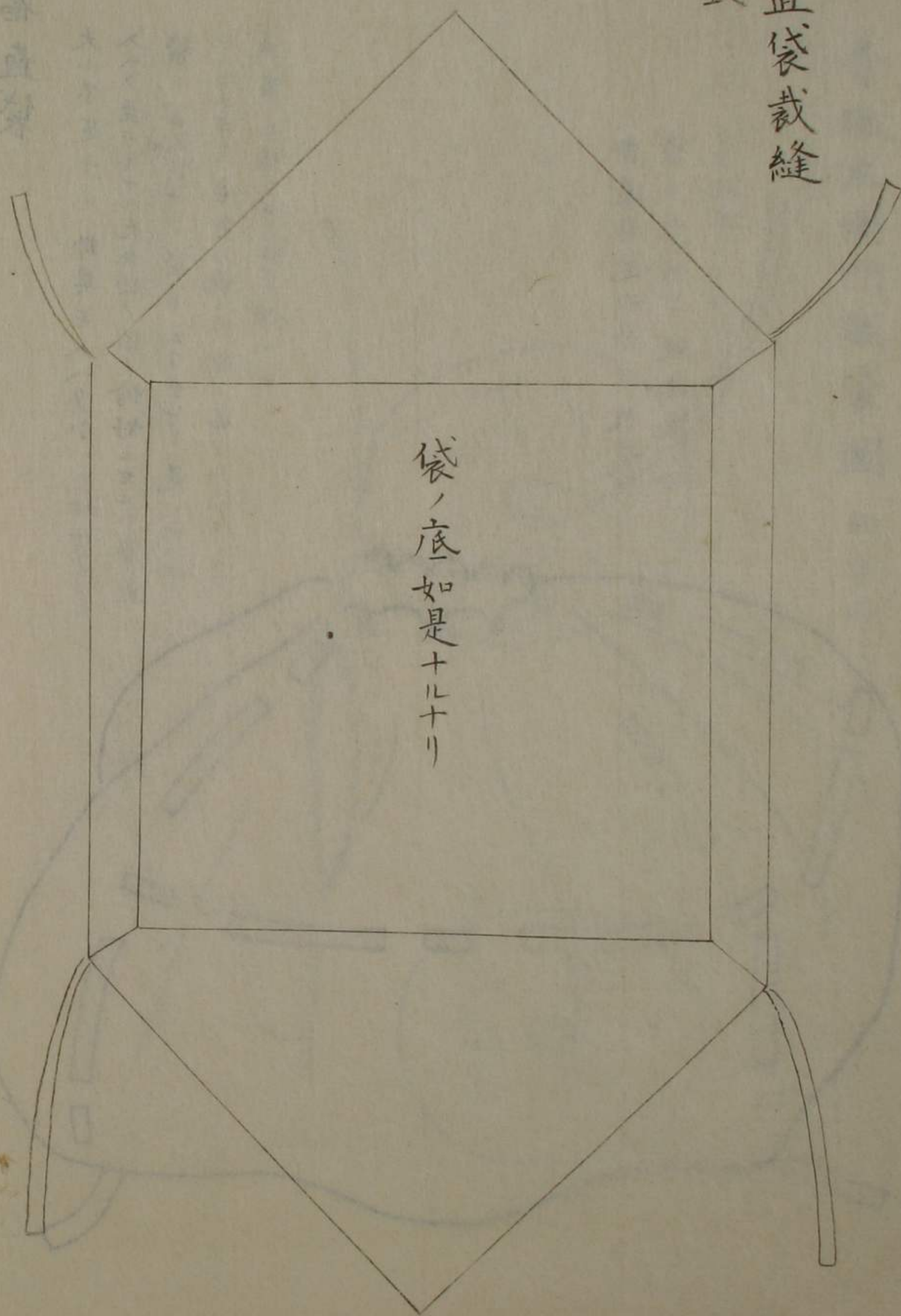
宿直袋

大小不定ナルハ附具モ入ヘク小ハ小袖ニウツモ
 入ヘク至テ小ナル凡此因ノ位ノ恰好ニセルハ宿直
 袋ト云スハハサシ袋ト云フサレト是ハウハサ
 シノアルヨリ名付シ物ニテ別ノ品アルニアラス
 表裏正緒ハ心ニ任テ調ヘシ



香道者流此袋ヲ枝サシ
 袋ト云テ用ルハ彼者流ノ俗
 ニテ故実ニアラス

宿直袋裁縫
圖式



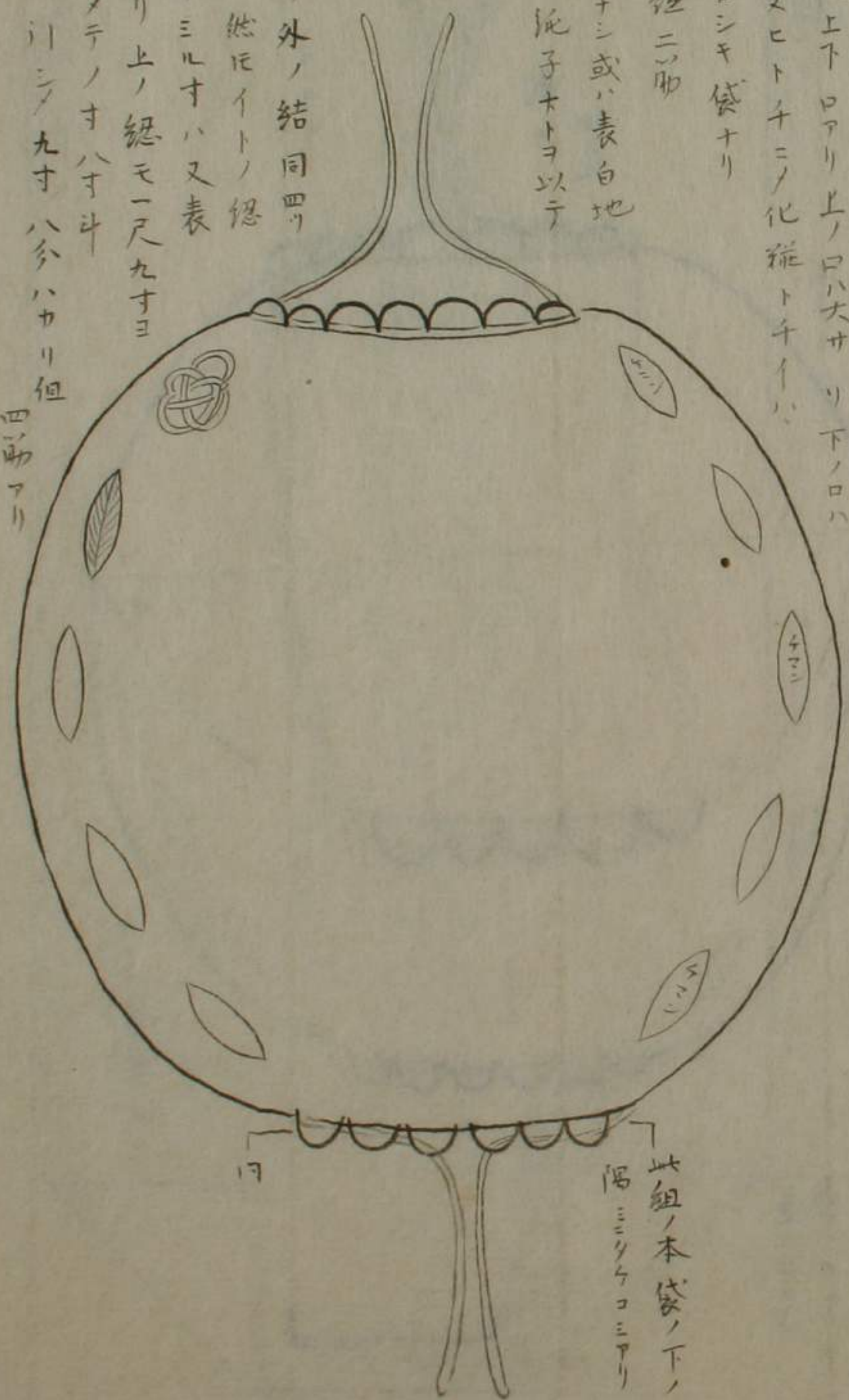
袋ノ底如是十ルナリ

田安中納言殿所藏

古代ノ袋名不祥然氏傳ル處調度袋也

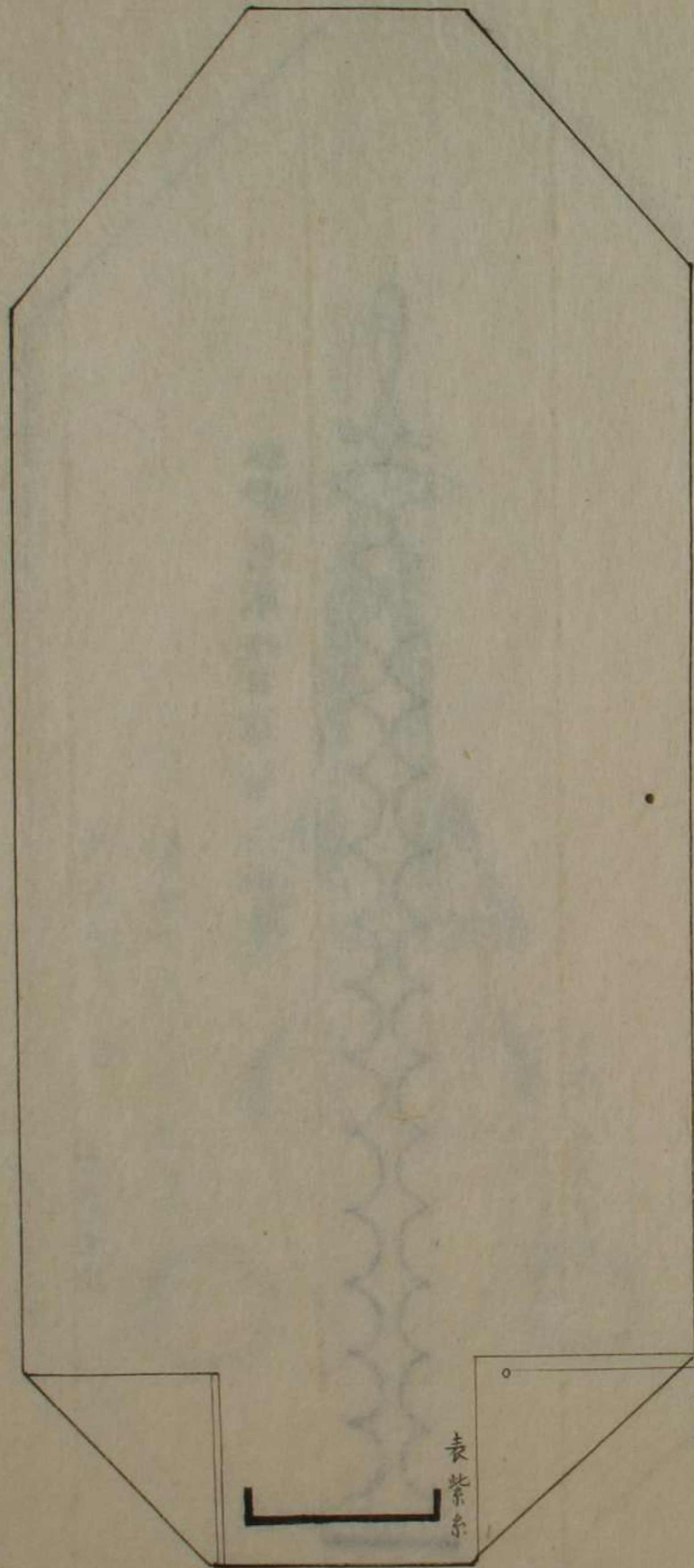
表背切レ替ルニ裏カイキ系紫色色指廻四ノケマント
異ナル結ト一狭上下ロアリ上ノロハ大サリ下ノロハ
小回リ皆クケヌヒトナニノ化程トナイハ
トナクテモヨロシキ袋ナリ
上紐一筋下ノ紐二筋
キレトニシキ金ナシ或ハ表白地
背ハ荒地小致純子ナトコ以テ
製ス大サ如図

紐
ケマニ氏表六ツ外ノ結同四ツ
総表裏ナシ然レイトノ總
カケヤウニヨツテミルハ又表
裏ナルニ似タリ上ノ紐モ一尺九寸ヨ
但袋ノ口ハシメテノ寸ハ寸斗
下紐長サ袋ハ寸九寸八分ハカリ但



四ツ筋アリ

此紐ノ本袋ノ下ノ
隅ニシクケコミアリ



此処内一折込

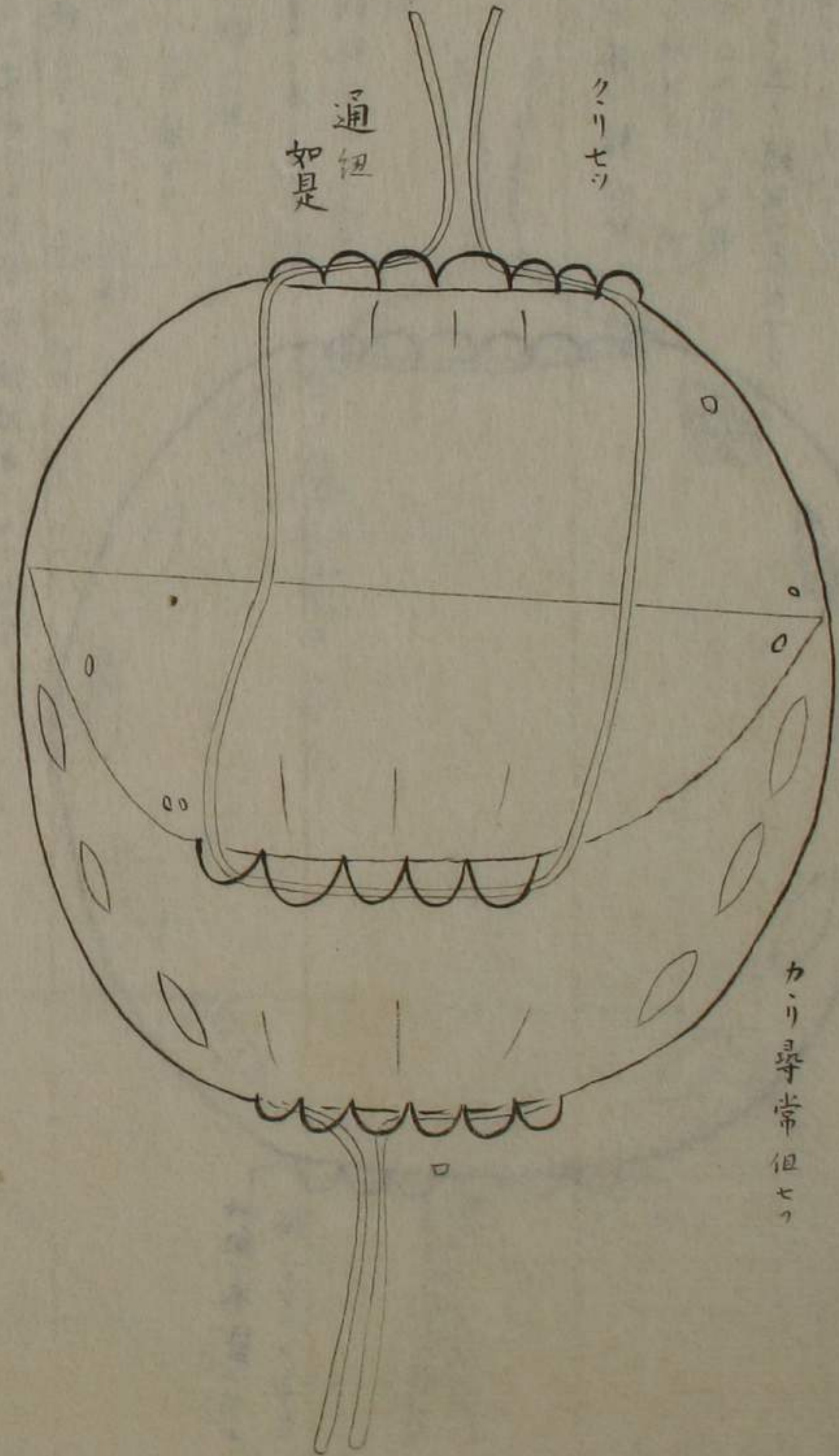
ウラノ図

表紫糸

白糸表 菊トキ
トクニアラス内ハ
別ニキクトキハ
表ハカリニ

文代袋

大サ寸法此図ノホト也地縮何ニテモ



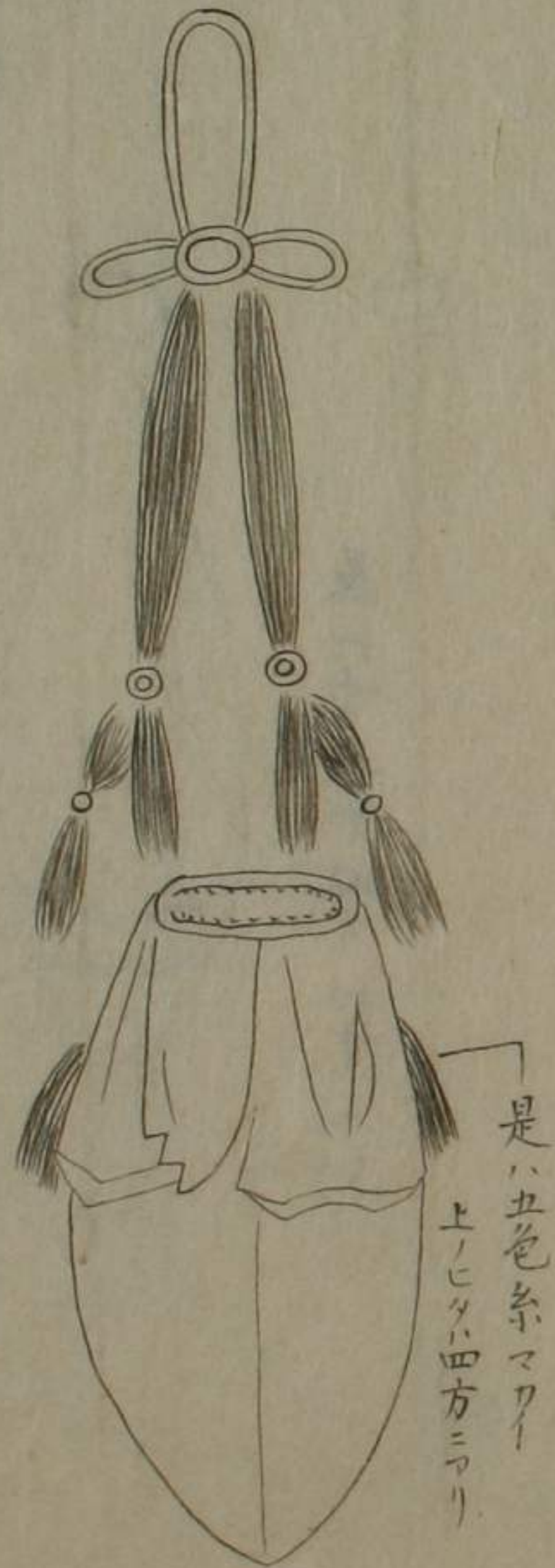
通紐
如是

クリセツ

カリ尋常但セツ

訶黎勒袋

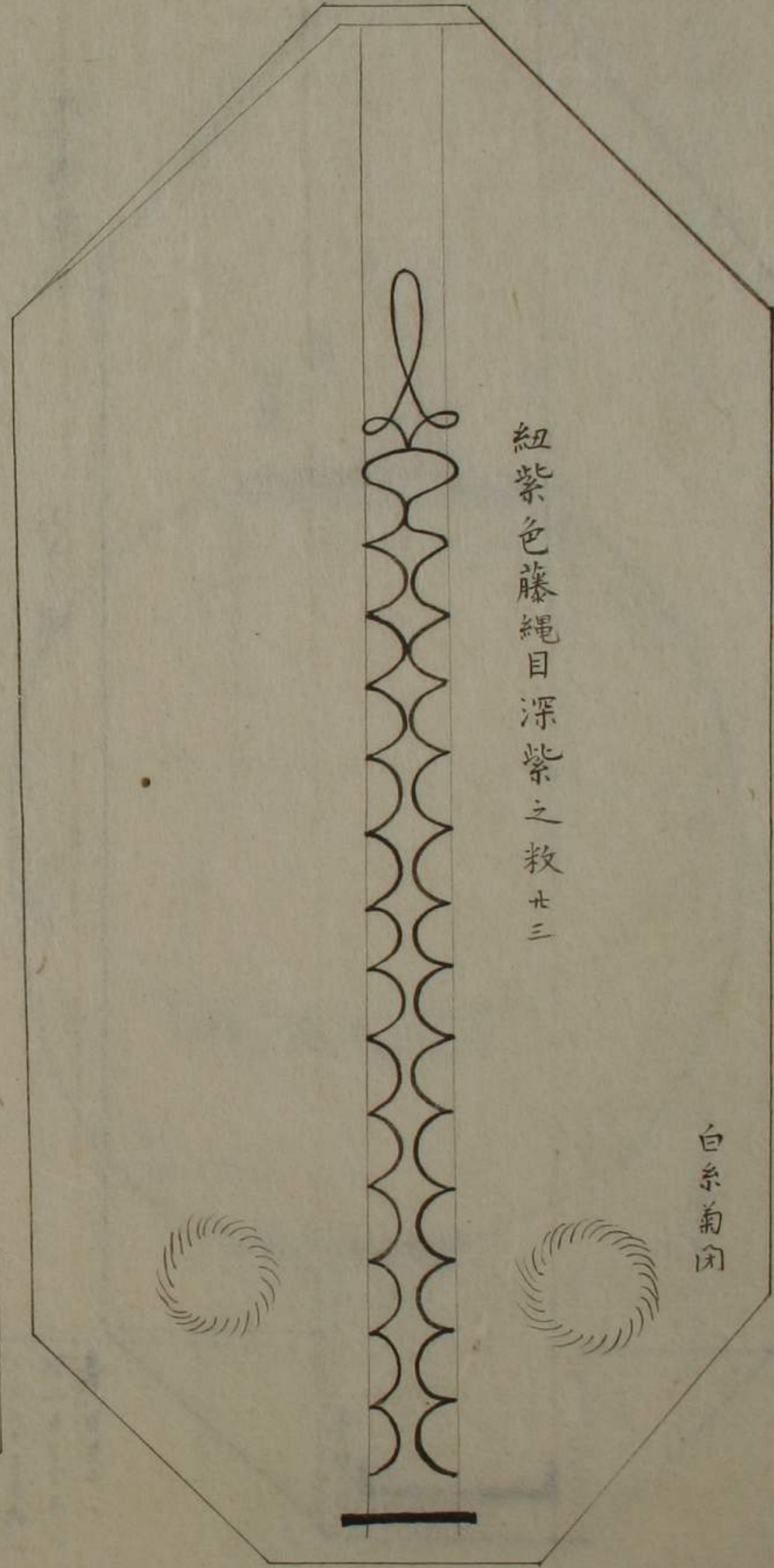
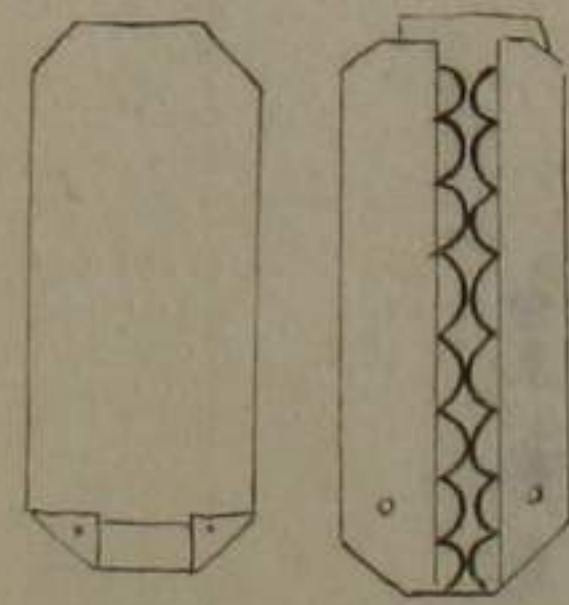
此袋白綸子西縁羽二重紅淺キ黄三段吹戻シ
 縫目至極コマカニイタシ因ノ通り裏ノ折返シ
 ロウカリ其切也掛紐クレナイ唐打タケ七尺西總長五寸二節



袋長廿口ヨリ下迄六寸三分
 折返三寸三分

是ハ丑色糸マワイ
 上ノヒタハ四方ニマリ

此圖必傳寫の誤り、ねぢはふ、海く、別、割、糸



紐紫色藤縄目深紫之教セ三

白糸菊団

結城家藏鞭袋古圖

表 金入錦裏茶丸但白布ニテモ

長三尺二寸五分

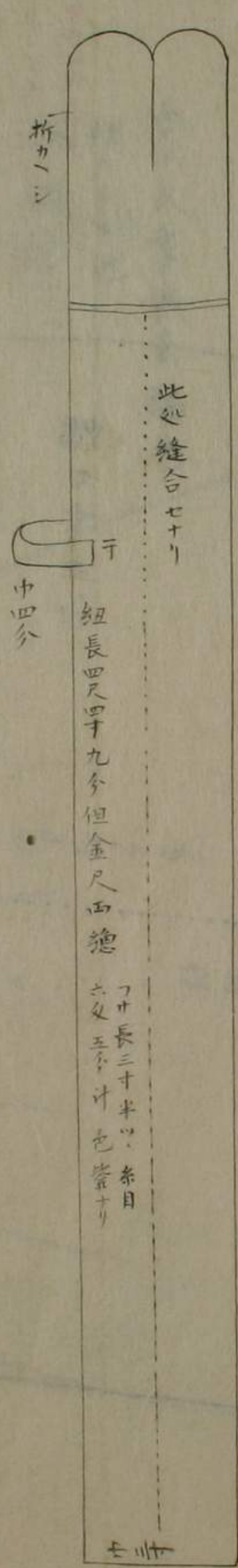
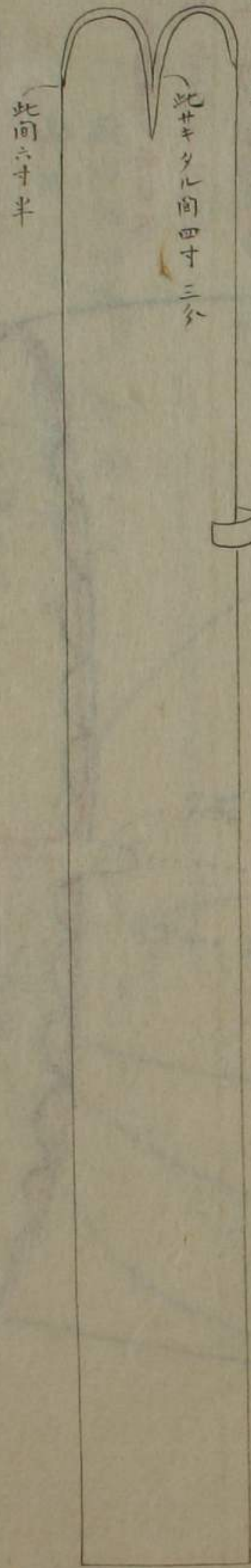


表 廿二リコトル

此サキタル間四寸三分

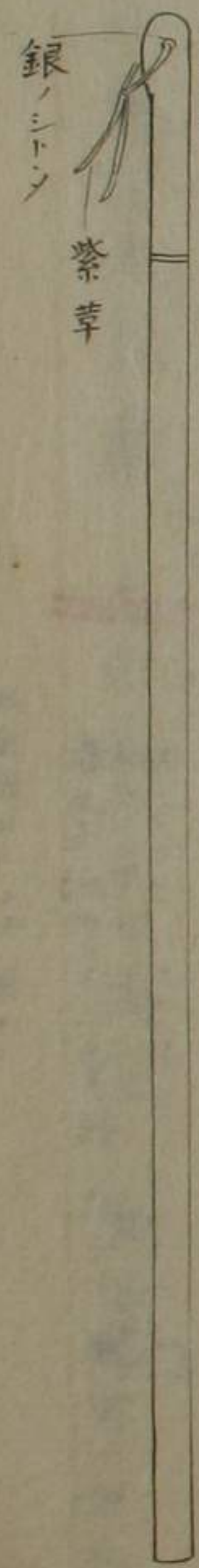


安永九年子丑月四日忘姫治候求
土佐家藏模寫蘇鞭圖

錦草ニテツム柄ノ間四寸五分

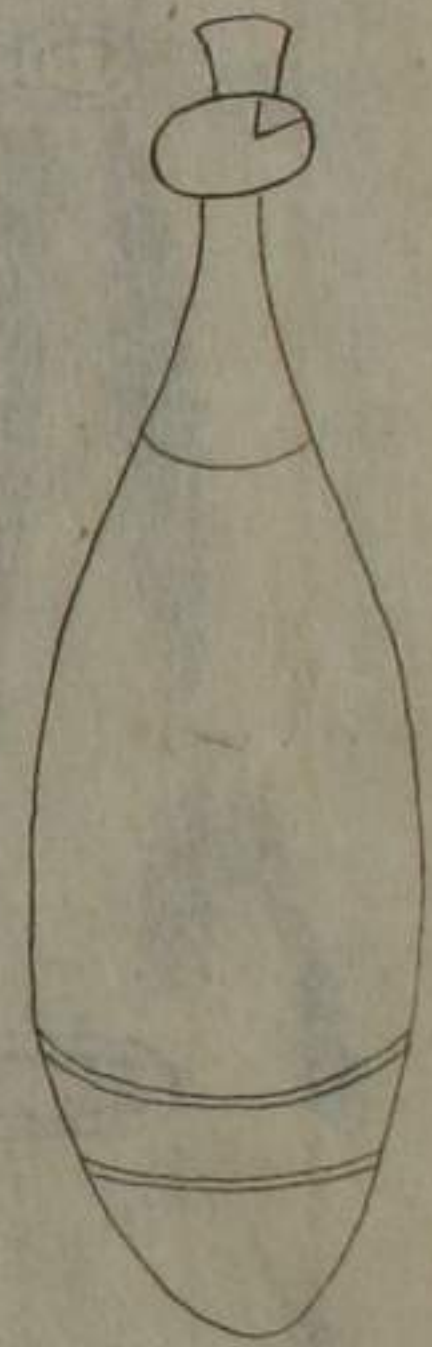
長二尺一寸

二尺五分



以上九圖摸于佐野氏家藏

孟冬廿三日 義直



フタ合口

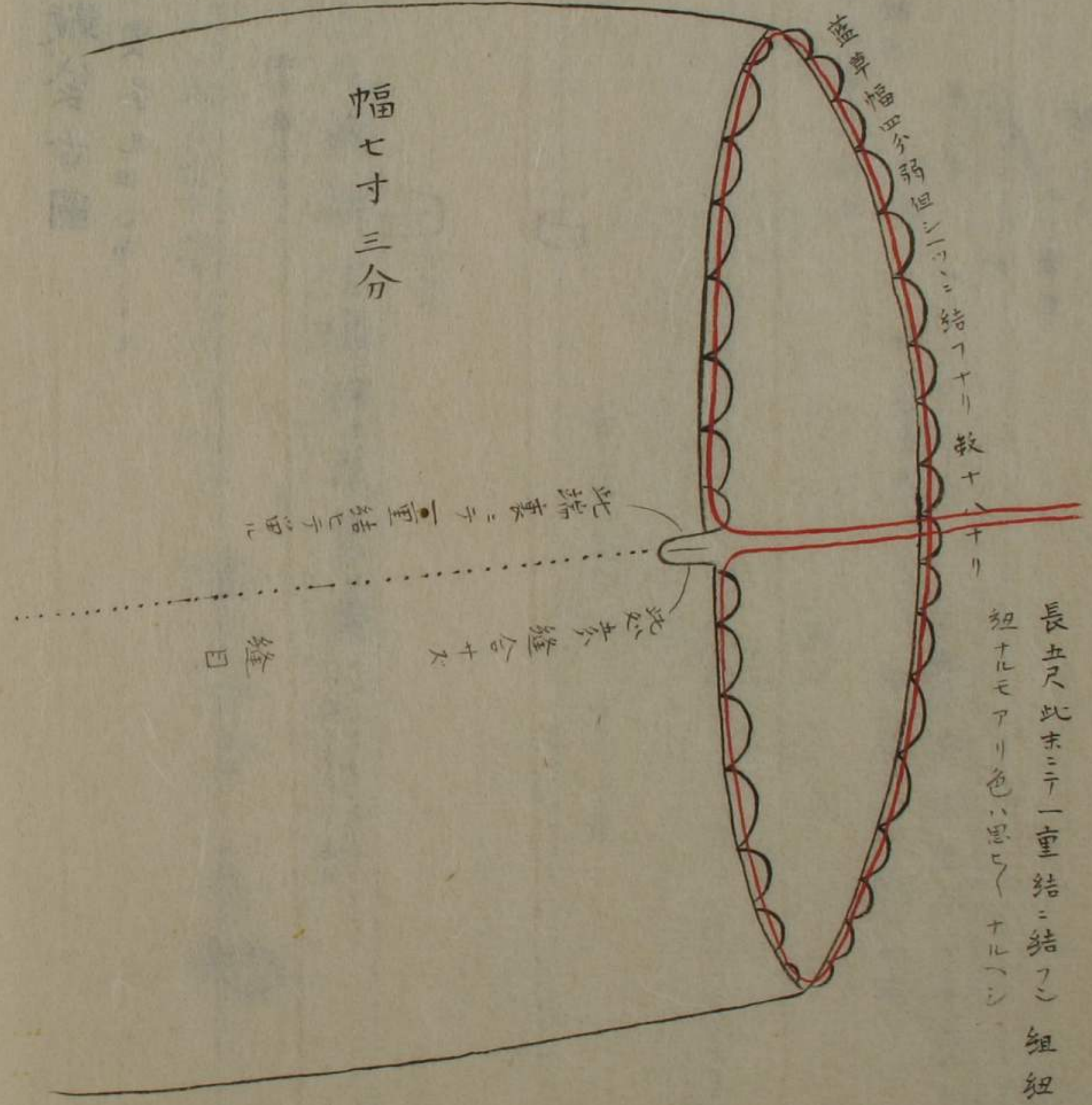
長六寸五分四リ四寸八分

此管紫檀古木ニテ作内クル
内一カリロク敷入口傳

臂囊

表白絹山笠ノ
摺衣ノ切ニ

中井氏傳來ノ無仙奇
遺物ハ長尺寸ニ分幅
七寸五分カキ赤草敷
十七底紐藍草ニテハ
ムスビトシタリ
上ノヒモハ針ノカケ結
ナルヤウニ見エ



木下氏家藏表褐色

裡カイキ也

緋ハ隨意ナルヨシ

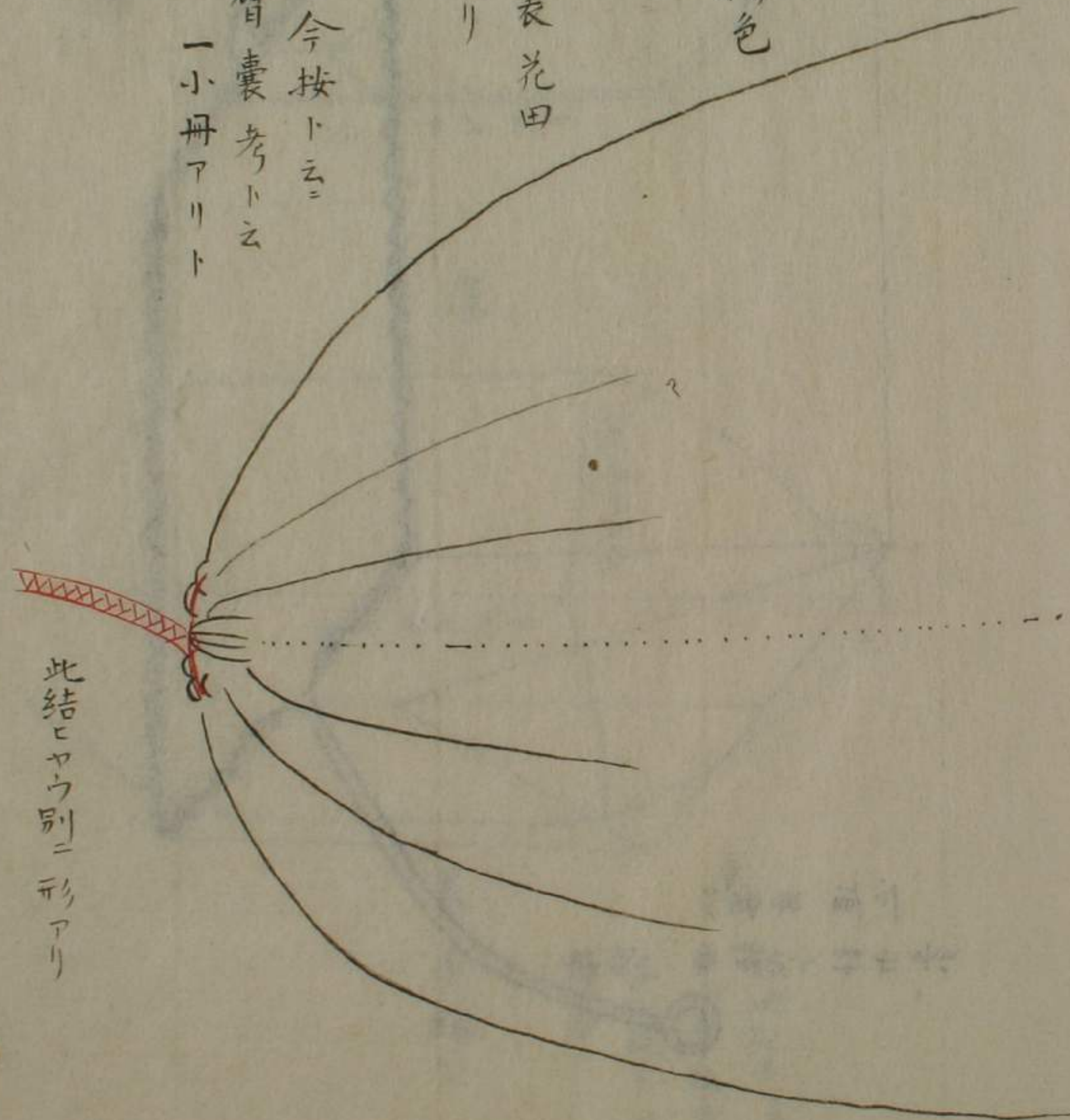
無仙奇遺物ハ表花田

係子裏白ノ綾ナリ

或曰無仙各ノ今按ト云ニ

即無仙各ノ臂囊考ト云

一小冊アリト



摹千木下氏家藏

己未孟冬廿日 前一日

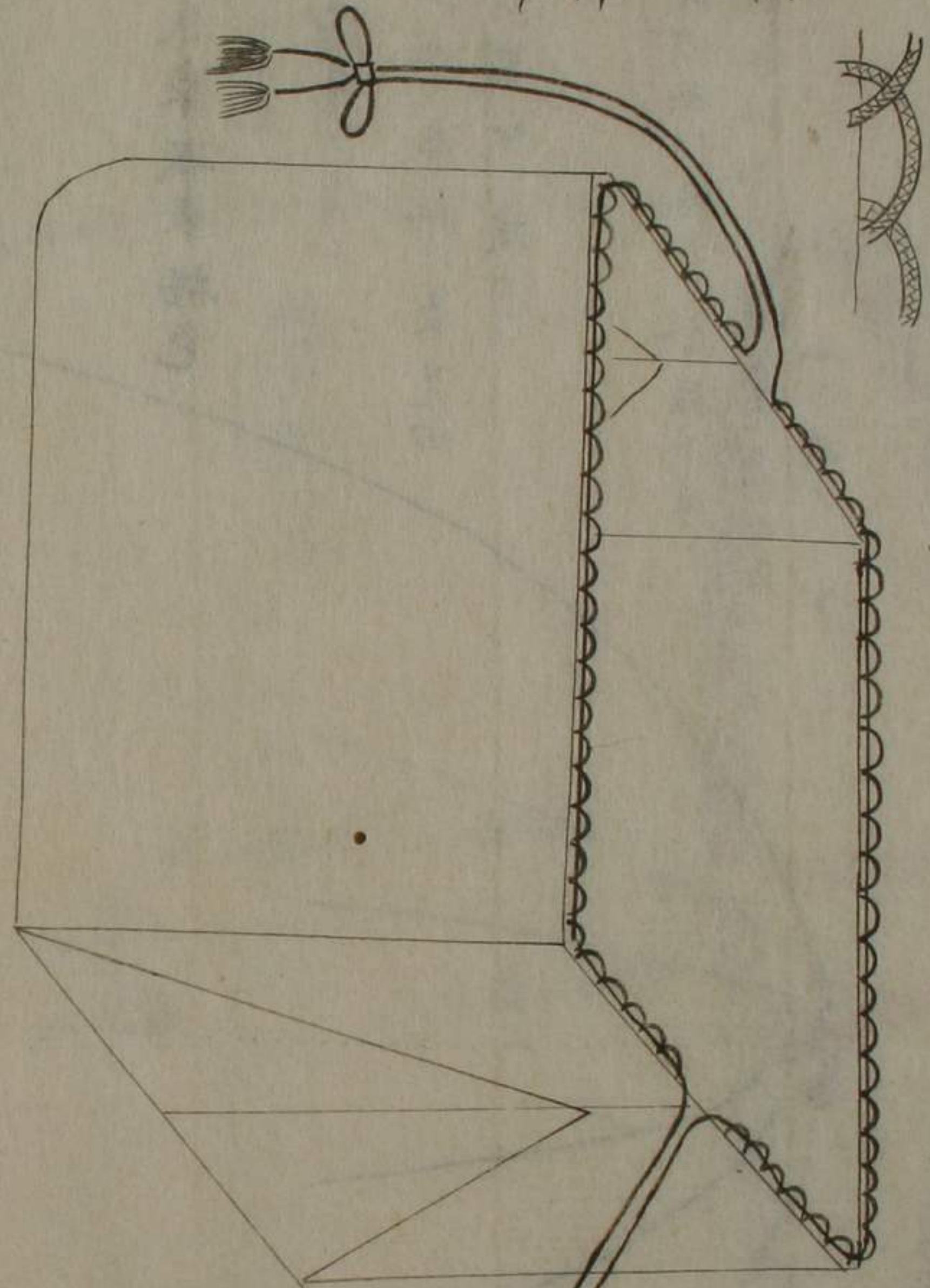
義直

此結ヒヤウ別ニ形アリ

馬皮駝囊

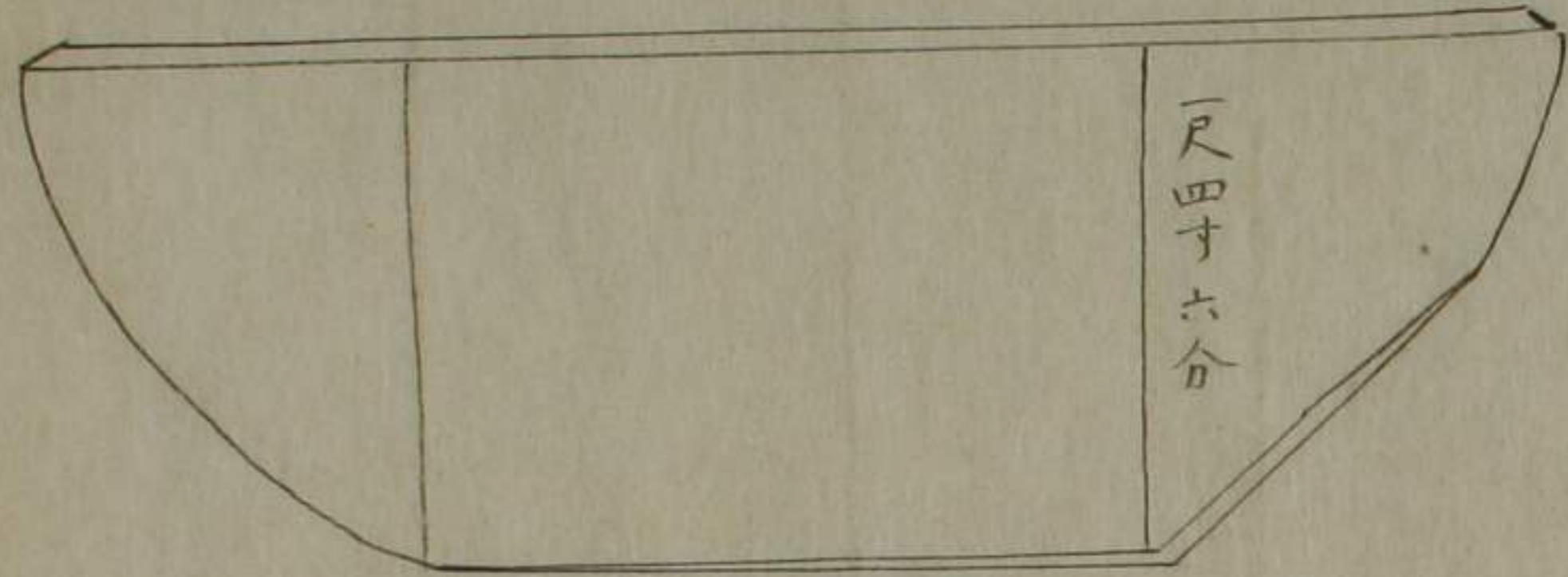
紐紫七丈四尺
穿縮紫數四丈

總用結



死結
四經九分計中紫
以漆牙造之

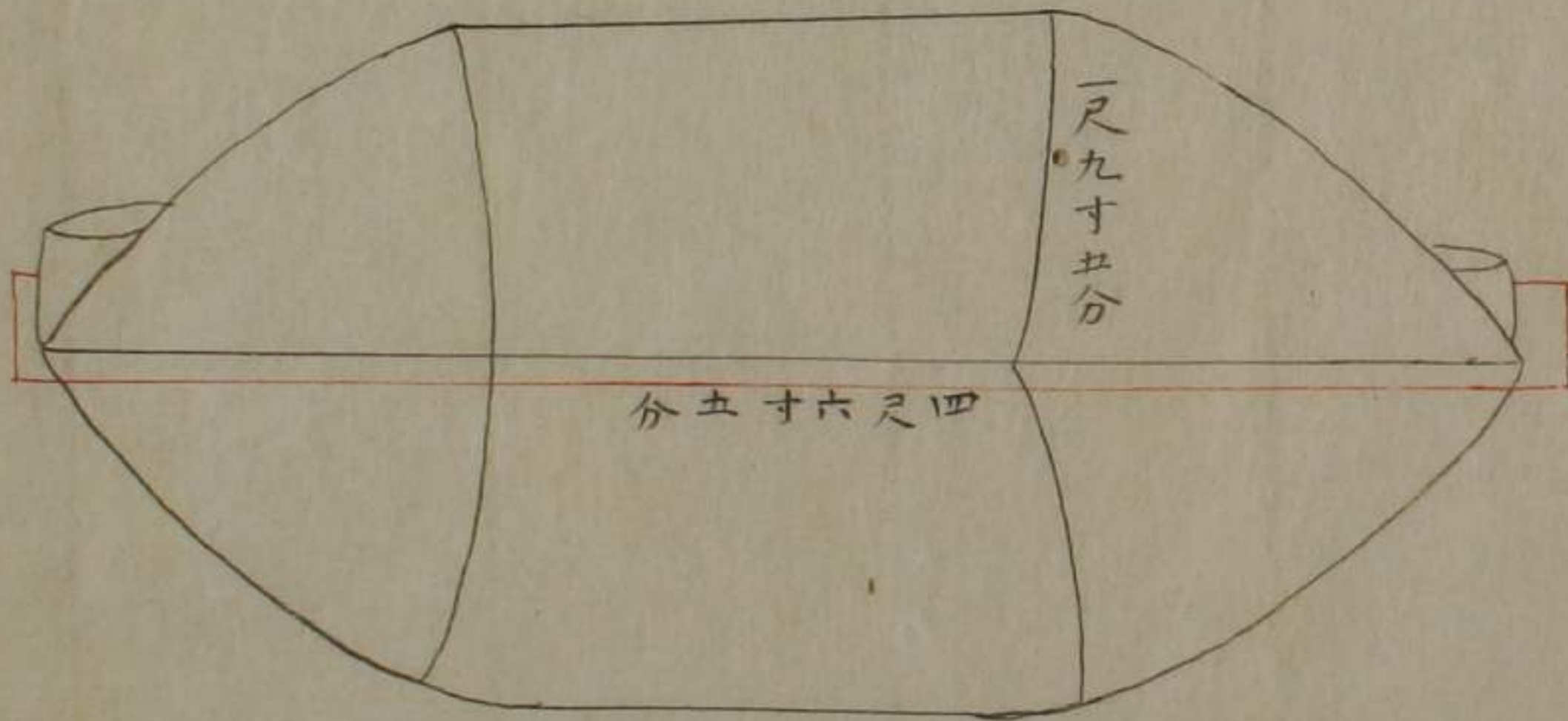
橫



分六十九尺一

一尺四寸六分

底



分五寸六尺四

一尺九寸五分

表

白地純子金入
白地厚板金入
茶地純子三寸
續合

裏

黑繡子

f

f

